



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成20年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成19年12月	平成20年3月	前回調査比
茨城県	40.4	36.5	△3.9
県北地域	40.9	34.6	△6.3
県央地域	35.9	36.4	+0.5
鹿行地域	43.3	34.3	△9.0
県南地域	43.6	41.1	△2.5
県西地域	38.3	36.0	△2.3

《景気の先行き判断DI》

	平成19年12月	平成20年3月	前回調査比
茨城県	36.2	40.4	+4.2
県北地域	34.5	40.0	+5.5
県央地域	34.5	39.9	+5.4
鹿行地域	37.1	41.5	+4.4
県南地域	39.5	36.9	△2.6
県西地域	35.4	43.6	+8.2

平成20年4月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
(1)	景気の現状判断D I	3
(2)	景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
(1)	景気の現状判断D I	5
(2)	景気の先行き判断D I	7
3	回答率	10
III	景気の判断理由	11
1	景気の現状判断理由	11
2	景気の先行き判断理由	21
3	その他の意見	31

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成20年3月31日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成20年3月調査の調査期間は平成20年2月28日から平成20年3月31日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数 (D I) は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気動向指数 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは36.5となった。「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、12月調査分より3.9ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

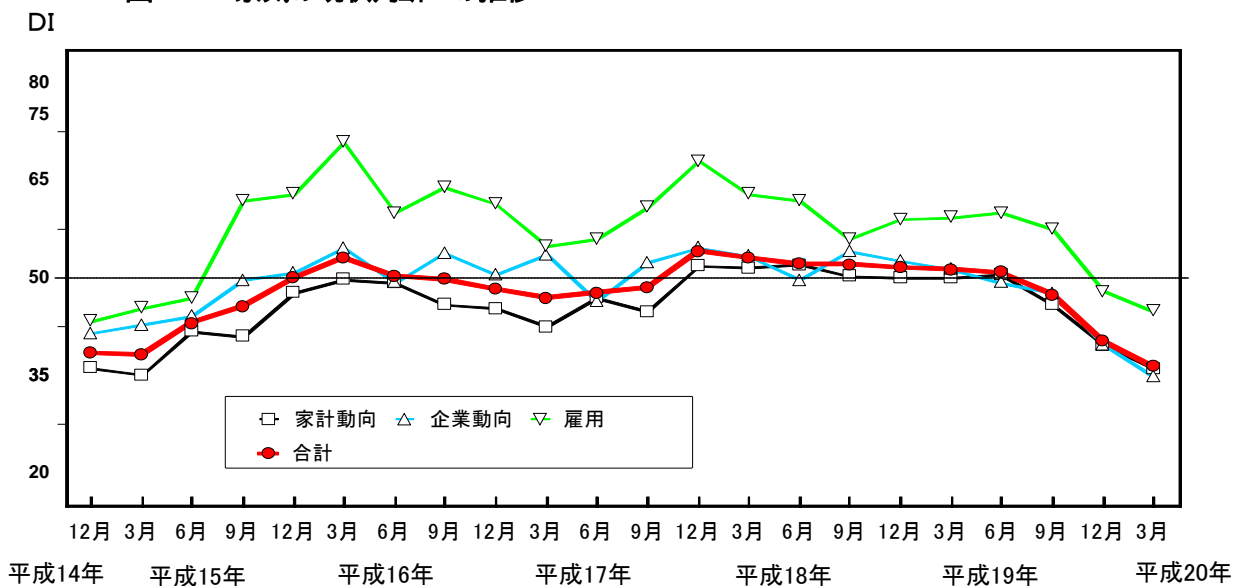
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月
合計		51.3	51.0	47.4	40.4	36.5
家計動向関連		50.1	50.6	46.0	39.7	36.1
小売関連		49.2	51.1	48.6	38.4	35.8
飲食関連		55.0	47.5	45.0	37.5	32.1
サービス関連		49.0	50.3	42.5	40.6	35.8
住宅関連		55.6	55.6	58.3	47.2	50.0
企業動向関連		51.5	49.4	47.7	39.8	34.9
農林水産業		46.9	50.0	56.3	37.5	43.8
製造業		49.4	50.0	46.3	38.3	35.3
非製造業		55.6	48.4	47.7	42.5	32.0
雇用関連		59.4	60.0	57.6	48.0	45.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 3月	1.4%	27.3%	51.1%	15.5%	4.7%
平成19年 6月	2.1%	25.0%	51.0%	18.8%	3.1%
平成19年 9月	3.8%	16.8%	49.1%	25.8%	4.5%
平成19年12月	1.4%	17.2%	35.1%	34.4%	11.9%
平成20年 3月	0.3%	8.2%	40.1%	39.8%	11.6%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは40.4となった。「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」の回答構成比が減少したため、12月調査分より4.2ポイント上昇したものの、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

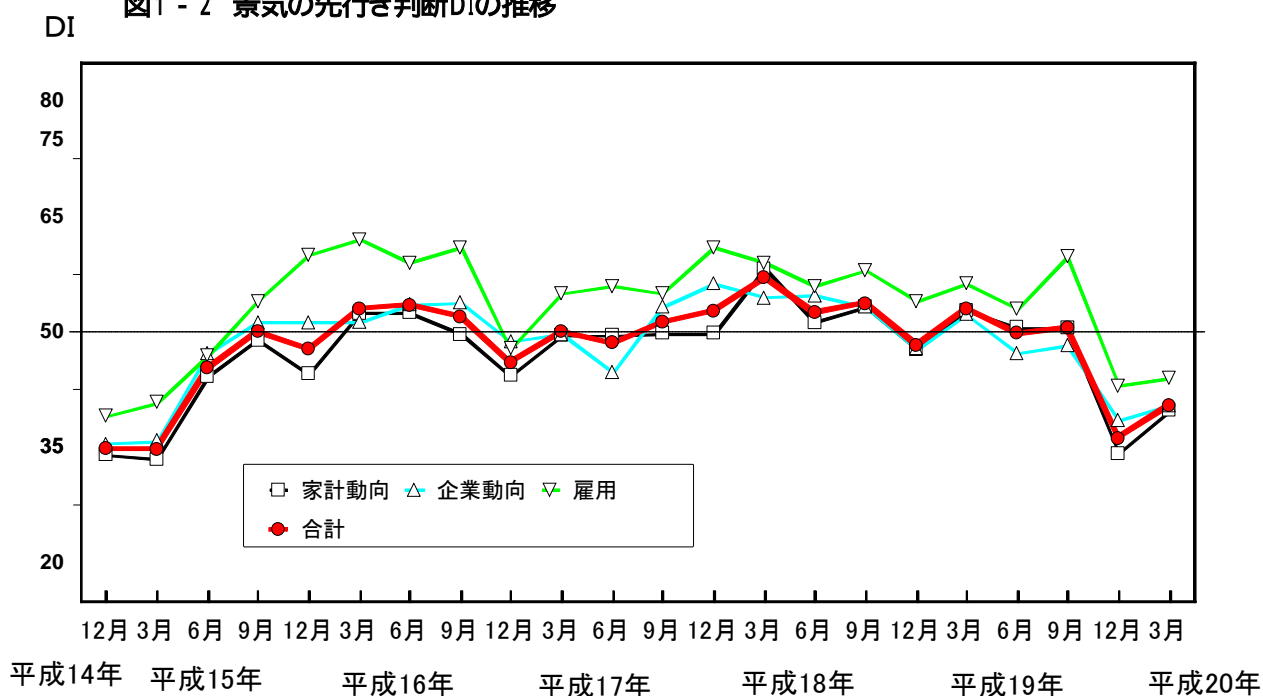
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月
合計	53.0	49.9	50.6	36.2	40.4
家計動向関連	52.8	50.7	50.6	34.2	39.9
小売関連	53.1	48.6	47.2	35.2	36.5
飲食関連	52.5	45.0	55.0	36.3	36.9
サービス関連	52.6	54.1	52.5	31.2	43.0
住宅関連	52.8	50.0	50.0	47.2	47.2
企業動向関連	52.4	47.3	48.3	38.6	40.4
農林水産業	53.1	50.0	53.1	40.6	53.1
製造業	52.8	45.5	46.8	37.8	39.7
非製造業	51.6	49.2	49.2	39.2	38.3
雇用関連	56.3	53.0	59.8	43.0	44.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 3月	1.1%	27.0%	56.8%	12.9%	2.2%
平成19年 6月	2.1%	21.5%	55.9%	14.9%	5.6%
平成19年 9月	3.4%	23.4%	49.5%	19.6%	4.1%
平成19年 12月	0.0%	8.4%	42.5%	34.7%	14.4%
平成20年 3月	0.3%	11.9%	43.9%	36.7%	7.1%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは34.6となった。12月調査分より6.3ポイント低下し、横這いを表す50を4期連続で下回った。業種別にみると、雇用関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		51.4	48.2	47.5	40.9	34.6
	家計動向関連	50.8	45.8	44.7	38.6	30.9
	企業動向関連	50.0	50.0	51.5	44.1	38.2
	雇用関連	60.0	60.0	55.0	45.0	50.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	0.0%	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%
平成19年 6月	0.0%	15.8%	63.2%	19.3%	1.8%
平成19年 9月	3.3%	20.0%	46.7%	23.3%	6.7%
平成19年12月	0.0%	18.2%	41.8%	25.5%	14.5%
平成20年 3月	0.0%	5.0%	43.3%	36.7%	15.0%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは36.4となった。12月調査分より0.5ポイント上昇したものの、横這いを表す50を3期連続で下回った。業種別にみると、企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは横這い、雇用関連DIは12月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		52.3	50.9	45.3	35.9	36.4
	家計動向関連	54.3	51.3	45.9	34.7	34.7
	企業動向関連	44.6	48.3	42.2	33.9	37.5
	雇用関連	60.0	55.0	50.0	50.0	45.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	0.0%	29.6%	55.6%	9.3%	5.6%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	58.6%	17.2%	1.7%
平成19年 9月	1.7%	10.3%	58.6%	25.9%	3.4%
平成19年12月	0.0%	9.1%	36.4%	43.6%	10.9%
平成20年 3月	0.0%	7.0%	38.6%	47.4%	7.0%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは34.3となった。12月調査分より9.0ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最も低かった。更に、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		49.1	51.7	50.8	43.3	34.3
家計動向関連		45.6	49.3	48.0	40.1	34.5
企業動向関連		54.7	51.5	54.4	50.0	33.8
雇用関連		55.0	70.0	60.0	45.0	35.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	1.8%	18.2%	58.2%	18.2%	3.6%
平成19年 6月	0.0%	34.5%	41.4%	20.7%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	22.0%	50.8%	22.0%	1.7%
平成19年12月	3.3%	20.0%	35.0%	30.0%	11.7%
平成20年 3月	0.0%	3.4%	47.5%	32.2%	16.9%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは41.1となった。12月調査分より2.5ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回ったものの、現状判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		50.9	53.5	50.0	43.6	41.1
家計動向関連		50.0	54.3	53.0	45.6	46.5
企業動向関連		50.0	48.5	40.3	35.9	26.4
雇用関連		60.0	65.0	68.8	55.0	55.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	3.4%	31.0%	39.7%	17.2%	8.6%
平成19年 6月	7.0%	28.1%	42.1%	17.5%	5.3%
平成19年 9月	7.3%	18.2%	43.6%	29.1%	1.8%
平成19年12月	3.6%	25.5%	27.3%	29.1%	14.5%
平成20年 3月	1.7%	11.9%	40.7%	40.7%	5.1%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは36.0となった。12月調査分より2.3ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは12月調査分を下回った。

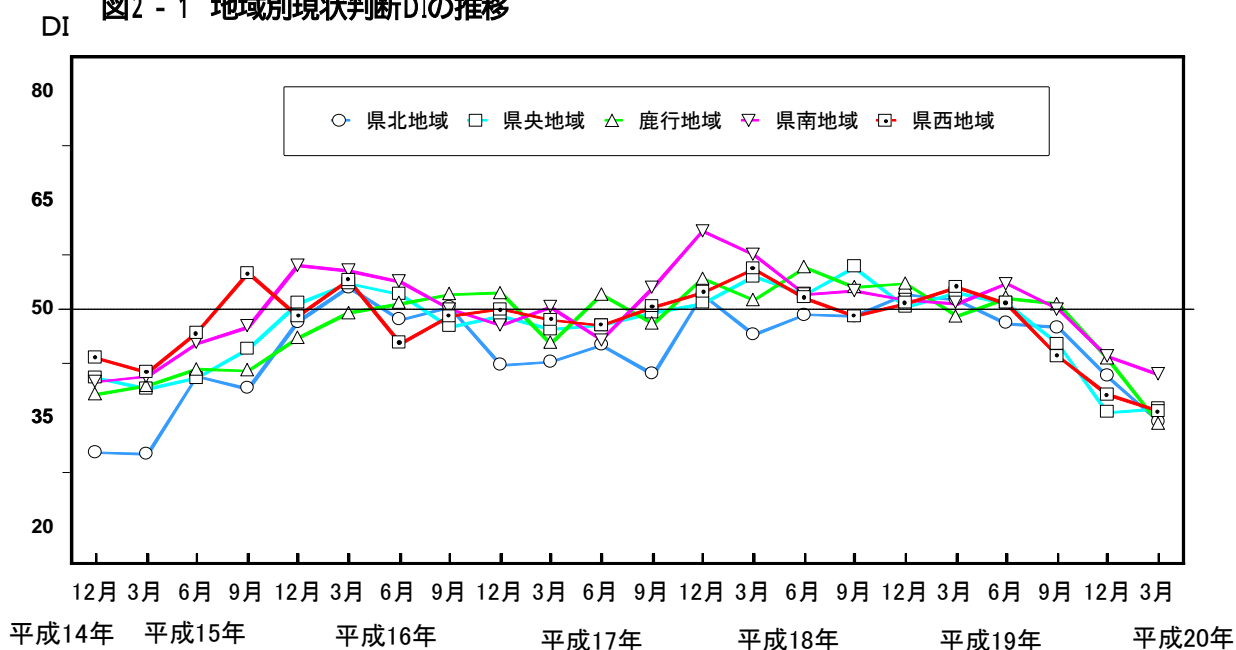
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		53.1	50.9	43.6	38.3	36.0
家計動向関連		50.0	52.2	38.9	39.6	34.0
企業動向関連		56.9	48.7	50.0	34.2	38.9
雇用関連		62.5	50.0	56.3	45.0	40.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	1.8%	29.8%	47.4%	21.1%	0.0%
平成19年 6月	1.7%	25.9%	50.0%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	13.6%	45.8%	28.8%	8.5%
平成19年12月	0.0%	13.3%	35.0%	43.3%	8.3%
平成20年 3月	0.0%	13.6%	30.5%	42.4%	13.6%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは40.0となった。12月調査分より5.5ポイント上昇したものの、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		52.3	52.2	53.8	34.5	40.0
家計動向関連		53.1	52.1	53.9	34.8	37.5
企業動向関連		48.5	51.6	52.9	32.4	47.1
雇用関連		60.0	55.0	55.0	40.0	35.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	0.0%	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%
平成19年 6月	1.8%	22.8%	59.6%	14.0%	1.8%
平成19年 9月	1.7%	30.0%	53.3%	11.7%	3.3%
平成19年12月	0.0%	3.6%	43.6%	40.0%	12.7%
平成20年 3月	0.0%	15.0%	35.0%	45.0%	5.0%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは39.9となった。12月調査分より5.4ポイント上昇したものの、横這いを表す50を3期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月
	合計		50.0	50.9	47.0	34.5
	家計動向関連	48.6	53.3	44.6	29.9	39.6
	企業動向関連	50.0	43.3	45.3	42.9	39.1
	雇用関連	60.0	55.0	70.0	45.0	45.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	0.0%	22.2%	57.4%	18.5%	1.9%
平成19年 6月	3.4%	15.5%	65.5%	12.1%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	17.2%	46.6%	29.3%	3.4%
平成19年12月	0.0%	10.9%	34.5%	36.4%	18.2%
平成20年 3月	0.0%	8.8%	50.9%	31.6%	8.8%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは41.5となった。12月調査分より4.4ポイント上昇したものの、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這いだった。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年 3月	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月
	合計		51.8	50.4	50.4	37.1
	家計動向関連	51.5	47.9	48.0	34.2	40.5
	企業動向関連	50.0	54.4	54.4	41.2	42.6
	雇用関連	60.0	55.0	55.0	45.0	45.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	1.8%	25.5%	54.5%	14.5%	3.6%
平成19年 6月	1.7%	24.1%	51.7%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	1.7%	27.1%	45.8%	22.0%	3.4%
平成19年12月	0.0%	6.7%	45.0%	38.3%	10.0%
平成20年 3月	1.7%	8.5%	52.5%	28.8%	8.5%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは36.9となった。12月調査分より2.6ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、雇用関連DIは横這いだったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		55.6	49.6	53.6	39.5	36.9
家計動向関連		55.7	52.9	56.1	40.4	39.6
企業動向関連		56.9	41.2	47.2	35.9	29.2
雇用関連		50.0	55.0	62.5	45.0	45.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	3.4%	24.1%	65.5%	5.2%	1.7%
平成19年 6月	1.8%	24.6%	52.6%	12.3%	8.8%
平成19年 9月	10.9%	20.0%	47.3%	16.4%	5.5%
平成19年12月	0.0%	16.4%	41.8%	25.5%	16.4%
平成20年 3月	0.0%	10.2%	37.3%	42.4%	10.2%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは43.6となった。12月調査分より8.2ポイント上昇したものの、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

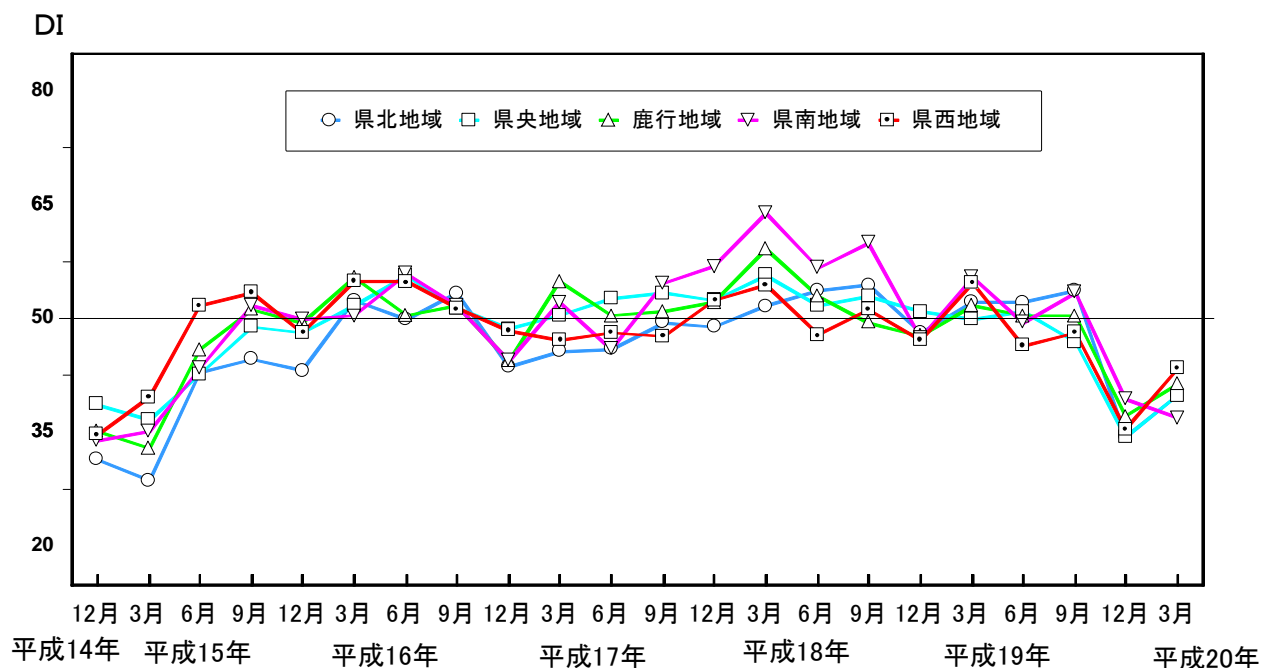
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年	平成19年	平成19年	平成19年	平成20年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		54.8	46.6	48.3	35.4	43.6
家計動向関連		55.0	47.1	50.7	31.9	42.4
企業動向関連		55.6	46.1	42.1	40.8	44.4
雇用関連		50.0	45.0	56.3	40.0	50.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 3月	0.0%	36.8%	47.4%	14.0%	1.8%
平成19年 6月	1.7%	20.7%	50.0%	17.2%	10.3%
平成19年 9月	0.0%	22.0%	54.2%	18.6%	5.1%
平成19年12月	0.0%	5.0%	46.7%	33.3%	15.0%
平成20年 3月	0.0%	16.9%	44.1%	35.6%	3.4%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	294 人	98.0%
県北地域	60 人	60 人	100.0%
県央地域	60 人	57 人	95.0%
鹿行地域	60 人	59 人	98.3%
県南地域	60 人	59 人	98.3%
県西地域	60 人	59 人	98.3%

Ⅲ 景気の判断理由 — 1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良く	家計	和食食堂	価格を下げられるものは下げるようにして、メニュー料金を調整し、消費税を内税表記にしたところ、売上げがやや伸びている。
	企業	製造業（電気機械器具）	3ヶ月前と比べて少し受注が伸びた。
	雇用	学校就業関係者	4月から始まる再就職のための訓練コースへの応募者が前年度に比べて少ない。景気が良いと応募者が減る傾向にあるため、景気はやや良くなっているのかもしれない。
変 わ ら な い	家計	スーパー	来店客数は変わらないが、商品の値上がりに伴い買い控えが見られる。
		衣料品販売店	来店客数に変化がない。
		衣料品販売店	相変わらず消費者の財布のヒモは固く、本当に欲しいものしか買わないのが現状である。
		自動車販売店	良くなっているとも、悪くなっているともいえない。
		農産物直売所	3ヶ月前と比べると客数・売上げとも減少しているが、前年同期比では客数・売上げとも横這いである。
		居酒屋	売上げは、3ヶ月前と変わっていない。
		観光型ホテル	売上げは大きく変化していないが、一般客の夕食の回数が減ってきていると思う。
		観光型ホテル	予約状況には変化が見られない。また、客単価も横這いで変化がない。
		旅行代理店	利用単価が上がらない。
		タクシー運転手	3ヶ月前も例年に比べ期待外れな結果だったが、1～2月の売上げも横這い状態である。
		ゴルフ場	ゴルフ場にとって1～2月は厳しい時期だが、前年度並の来場者数を獲得できている。近隣のゴルフ場でも、来場者数は増加傾向とのことである。集客対策として行った料金割引の効果が大きかったようだ。料金単価は前年を下回る設定である。当グループの首都圏部ゴルフ場の集客は、単価ともに順調に推移している。取引業者の話や車の動き等を鑑みても、水戸以南はプラス、以北はマイナスの要素があるようだ。ゴルフ場においても地域格差を感じさせられる。
		パチンコ店	パチンコ店は景気が集客や利益に直結する業態だが、今のところ数値的に変化感を得られていないため、景気も良くなっているとは言い難い。
		住宅販売会社	景気に対する明るさはまだ見出せないが、悪くなっているとも感じられない。
		い	企業
製造業（食料品）	売上高は横這いであり、燃料や資材等のコスト上昇分を製品価格に転嫁できない状況が続いている。		
製造業（電気機械器具）	原油高、円高の影響により、景気減速感はあるものの、前年同期と比較すると、堅調に推移しており、悪化しているとはいえない。		
製造業（電気機械器具）	2～3月には大きな変化はない。		
建設業	年度末を迎え繁忙期ではあるが、仕事量が上向いている訳ではないので、業況はそれほど変化していない。		
金融業	設備投資がほとんどなく、景気が良くなっている実感はない。		
な	雇用	人材派遣業	引き続き、人材の派遣依頼はきている。
		求人広告	取引先等との話の中で、景気が良くなったという話は聞かないし、総合的にも求人数は減少している。
		求人開拓員	業務量の増加に伴い新卒者の採用が決まった企業では、現状の仕事量を現員数でやらなければならないので、3月は辛い状況らしい。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	中心商店街への来街者数の減少に歯止めがかからず、売上げ減少を招いている。
		スーパー	チラシ掲載商品等、価格の安いものしか売れない。また、1人あたりの販売個数が減少している。
		コンビニエンスストア	依然として、売上げは前年水準を割り続けており、客1人あたりの買上げ単価、点数ともに前年値を下回っている。
		コンビニエンスストア	客の財布のヒモは緩くなるどころか、固くなる一方である。原因は大きく2つ考えられる。1番目は物価の上昇、2番目は食に対する不安感である。客との会話には、この2つのどちらかが必ず話題に出てくる。
		家電販売店	売上げは、前年同月比で変わらないが、消費者の商品を選択する眼が以前にも増して厳しくなっており、客単価の下落が続いている。このため、粗利率の低下に歯止めがかからない。
		小売業（水産物）	客単価が下がっている。

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなる	家計	スナック	3ヶ月前は忘年会シーズンであり、冬のボーナスも支給されて客数は増加したが、その時期と比べると、2～3月は売上げが確実に下がっている。
		タクシー運転手	石油関係商品の値上がりにより、消費者の財布のヒモが固くなっているのか、タクシーの売上げもやや悪くなっている。
		ドライブイン	売上げは3ヶ月前よりやや悪化している。また、対前年同月比では、前回(H19.12月)、今回(H20.3月)とも15%程度落ちている。交通量も昨年同月よりかなり少ない。
		ゲームセンター	最近の家庭には一家に一台家庭用ゲーム機があることに加え、1円パチンコのサービスを行う店へ客が流れているため、客数が減少傾向にある。
		レジャー施設	売上げが、対前年同期比▲10%となった。また、スプリングフェスティバル(3月中旬～4月)を開催するにあたり、取引業者や地元企業に協賛を依頼したのだが、協賛企業数が前年より若干減少している。
		レジャー施設	最近の石油製品や穀物類の値上げによる影響で、1人あたりの消費単価が前年と比較して大幅に減少している。
		理容店	売上げは前年同期と比較してそれ程変わらないが、原油の高騰や灯油の値上がりにより、原材料費や光熱費等は前年比で+20%程度増加している。
		美容室	業種柄季節的要因に左右されやすく、年末に比べると売上げは若干減少している。
	企業	水産業関係者	水産業界にあつては、固定経費である燃油価格の高騰が生産者を直撃しており、生産部門・加工部門とも、景気は後退していると思われる。
		製造業(電気機械器具)	取引先の中でも、情報通信機器関係は好調を維持しているようだが、半導体関係は今年に入り元気がない。生産計画も3ヶ月前と比較し難いくらいに落ち込んでいる。また、昨年高騰したステンレス等の非鉄金属の価格は、徐々に下がりつつあるものの、依然として高値であることに違いはない。加えて鋼材価格も高騰してきており、景気はやや悪くなる方向に進行していると思う。
		製造業(電気機械器具)	株価下落により、会社の退職年金の運用結果がマイナスになっている。3月末時点でマイナスとなれば、損失補填することになり、収益は悪化、昇給にも影響しそうだ。
		製造業(輸送用機械器具)	原油高騰に伴い、樹脂材料や梱包材料等が高騰していることに加え、昨今の鉄鋼石価格の高騰に伴い、薄板や棒鋼等の価格についても高炉メーカーから再度の値上げを要請されている。価格変動分をスライド変更できる契約をしていない顧客に対する交渉が難航しており、収益の確保が更に厳しくなっている。
		情報通信業(情報サービス業)	原油高の影響などで、投資意欲が減退傾向にあり、若干景気が悪くなっているように感じる。
		不動産業	売り出し会における来場者数は頭打ちである。また、顧客の購買意欲も低下しているようだ。
雇用	公共職業安定所	新規求人数及び有効求人数が、前年同月と比較して3ヶ月連続で減少している。	
悪くなっている	家計	スーパー	中国産冷凍ギョーザ事件は、冷凍食品だけでなく、食品業界全体に多大な影響を及ぼしている。事件の全容が解明されない限り、食品業界の景気は好転しないだろう。
		ガソリンスタンド	店舗間で価格競争に陥っているため、収益増は難しい。
		小売業(酒類)	大型店の出店により、来店客数の減少が目立つ。酒類全般について、売上げを維持するのが厳しい状況である。
		居酒屋	宴会の回数が減少しているだけでなく、店舗周辺における20時以降の人通りも減少している。
		観光型ホテル	職種柄、前回(12月)は繁忙期であり、宿泊や忘年会等により売上は良かった。しかし、今年は袋田の滝の全面凍結や久慈川のシガ(シャープベット状の氷がまとまりながら流れていく現象、冷え込んだ朝などに見られる)が殊の外少なく、年明け以降の観光客数は例年より少ない。
		タクシー運転手	12月頃に比べると、飲食店街の人通りが激減している。夜9時を過ぎると、歩いている人がほとんどいない。これに伴い、タクシーの売上げもかなり減少している。
		タクシー運転手	3ヶ月前は忘年会シーズンであり、その時期と比較して売上げが落ちるのは例年のことだが、今年は例年よりも落ち込みが激しいように思う。季節要因以外の原因として、新たに始まった配車システムも関係しているかもしれない。
		クリーニング店	客数、客単価ともに減少している。
企業	製造業(電気機械器具)	受注残が減少した。	

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	自動車販売店	車業界では新型車が発表される時期であることに加え、卒業シーズンでもあり、売上げは微増ではあるが伸びている。また、レンタカーでは、入学や異動による引っ越しの増加に伴い、トラックの需要が多くなっている。
		ゴルフ場	気候が温暖になってきたため、プレー申込みも増加している。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	景気が良くなっている実感があるわけではないが、飛び込みの工事受注がきたため、3ヶ月前と比べて現在は忙しい状況にある。
		製造業（一般機械器具）	建設機械等が元気である。親会社はもとより、関連会社からの注文も増えてきている。
変 わ ら な い	家計	百貨店、総合スーパー	12月と比べて、前年比は上回って推移しているため、一見景気が回復しているように見えるが、売れているアイテムをみると、着回しのきくものや価値観を強く訴えるものしか動いていない。消費者の財布のヒモは相変わらず固い。
		スーパー	売上げ及び客数は横這いである。
		スーパー	客1人あたりの購入額や購入点数等の数値があまり変化していない。
		専門スーパー	全体の売上げとしては、3ヶ月前と大きく変わらないが、2月は昨年と比べ寒かったため、灯油の売行きが好調だった。
		専門スーパー	寒い冬も手伝って、冬物商品の動向が良かったため、全体では変わらないが、値上げの影響もあり、必要なもの以外の購入は控えているようにみえる。
		レストラン	特に、売上げ等には変動が見られない。
		ファミリーレストラン	客数・客単価がほとんど変動していない。
		観光型ホテル	株価の下落や企業業績の下方修正、物価の上昇等のマイナス要因はあるものの、現時点では例年どおり推移している。
		タクシー運転手	乗客との会話からも、景気は3ヶ月前とおおよそ変わらないと判断できる。
		レジャー施設	年明けから入場者数は減少したが、週末に大雪が続くなど天候の影響によるものと考えられるので、景気はあまり変わっていないと思う。
		建築設計事務所	3ヶ月程度ではそれほどの変化は見られないと思う。また、新築物件よりもリフォームの相談の方が多く、如何に工事費を安く抑えられるかを求められるケースが多い。
		住宅販売会社	良くなってもいないが、悪いと実感出来るほどでもない。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	売上げは依然として低調である。
		製造業（印刷・同関連業）	特に変わった様子は見受けられない。
		製造業（精密機械器具）	例年3月は、年度末と言う事で売上げが大きくアップする。今年の3月も、売掛残から予測すると通年の中で一番の売上額となりそうである。ただ、その分どうしても4月の売上げに影響が出てしまう。
		運輸業（道路貨物運送業）	年度末の忙しさはあるが、大きな変化はない。
雇用	人材派遣業	前回調査の先行き判断で、年度末にかかると、やや良くなるだろうと推測したが、現状は好転しなかった。例年に比べると、受注数が鈍化傾向にある。直接雇用の流れも手伝っているとは思いますが、派遣人材での補充対応は落ち着きつつあるかも知れない。	
	求人広告	大きな動きがなく、状況は変わらないと思う。	
	学校就業関係者	就職支援センターに送付されたり、直接当センターに持ち込まれる求人表の数は、現時点ではほとんど変わらない。減る兆候も増える兆候もない。	
	求人開拓員	相変わらず専門職の求人は多いが、製造業やサービス業においては変化がない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	年上げ以降、値上げした商品が多いため買い控えが見られる。
		商店街代表者	商品の説明をしても、ほとんどの客が「一番安い商品を下さい」とハッキリ言うようになった。今までは、「多少良いものが欲しい」とか「良いものが見たい」という客がいたため、1人あたりの客単価をある程度高く維持できたが、今年に入ってから、安い商品を買っていく客ばかりである。高品質であっても高額な商品は売れなくなった。
		百貨店、総合スーパー	株価の下落による宝飾品等高額商品の売行き不振や、原材料価格の高騰に伴う食品等の相次ぐ値上げが、消費意欲を押し下げる一因になっていると感じられる。
		スーパー	中国製冷凍ギョーザの事件以来、冷凍食品や中国製商品の利用が減少している。
		コンビニエンスストア	消費動向が単価の安い商品に集中している。
		家電販売店	原油価格の上昇に伴う物価の値上がりにより、消費者心理が冷え込んでいる。

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計	レストラン	低価格設定のランチは変わらないが、ディナーの利用者が減少している。また、アルコール飲料のオーダーが減っているため、客単価が下がっている。
		割烹料理店	大手スーパーやコンビニエンスストアの格安弁当が多く出廻っており、飲食店の売上げはやや悪くなっている。
		都市型ホテル	客の様子を見ていると、購入する品目が少なくなっているようだ。また、単価の低い商品を購入する傾向も見られる。
		都市型ホテル	ガソリンや食材等の値上げにより、関係業種の人からは厳しいという話をよく聞く。ホテル業界でも、同様に厳しい現状である。
		旅行代理店	1～3月の旅行申込状況を前年同時期比と比べてみると、国内旅行は微増だが、海外旅行は激減しており、原油高騰が海外旅行を中心にマイナスの影響を及ぼしていることが如実に伺える。
		タクシー運転手	代行の利用者が増加する一方で、タクシーの利用者は減少している。
		タクシー運転手	年末に比べて、売上げ等は落ち込んでいる。借楽園の梅まつりが開催中だが、タクシーを利用する人は少なくなっている。
		タクシー運転手	売上げ及び実車回数で比較してみると、3ヶ月前(11/16～12/15：営業日数17日)と今回(12/16～3/14：営業日数19日)とで売上げ、実車回数ともに減少している。
		ドライブイン	売上げ、来客数ともに3ヶ月前と比べ大きな変化はないが、前年の同時期と比べるとやや悪くなっている。
		ドライブイン	借楽園では梅まつりを開催中であり、3ヶ月前と比べると状況は良いが、昨年と比べると客の出足は鈍い。
悪くなっている	企業	観光名所	3ヶ月前の前年比と今月の前年比を比べると、今月はやや低調である。隣館で開催されている企画展の集客等も影響しているかもしれない。
		理容店	そろそろ下げ止まりかと思われるが、売上げは依然としてだらだら下がっている状態である。
		製造業(食料品)	観梅客に期待したが、思ったより客足が伸びず、客単価も低い。
		製造業(食料品)	天候不順の影響があるのかもしれないが、販売金額が低迷している。
		建設業	マンション等の売行きが鈍っている。
		情報通信業(情報サービス業)	原油高・素材高によるコスト増加分を価格に転嫁するのは難しいという企業の悩みが多く聞こえる。取引先との商談状況等から、企業経営面では、景気回復の流れが曲がり角に差し掛かってきたと感じるようになった。個人消費面は、小売価格アップ等にもかかわらず、思ったほど落ち込んだ様子には見えない。しかし、景気が良いとの話はあまり聞こえてこず、景況感としてはやや後退していると感じる。
		金融業	アメリカのサブプライムローンの影響の話題が必ずと言っていいほど出てきており、株価の下落と相まって景気はやや悪くなっているという印象が強い。
		不動産業	来客や電話、Eメール等での問合せ件数が若干減少した。
悪くなっている	雇用	サービス業(広告業)	販促広告の出稿件数が年明けから下がり続けている。昨年同時期と比較して20%も広告出稿量が減少している。
		サービス業(コンサルティング業)	顧客先の小売店や飲食店の前年同月比を比較すると、3か月前よりやや悪くなっている。また、水戸市内で毎年同時期にイベントを仕掛けているが、前年に比べて集客力が落ちた。
悪くなっている	家計	公共職業安定所	新規求人、有効求人数は対前年同月比減少傾向にあり、3ヶ月前よりも減少している。有効求人倍率も3ヶ月前より減少している。管内2月の事業所業況調査では、「普通～好調」と回答した事業所が、285事業所中188社(66.0%)、業況DIは▲15.3であり、前回調査時より5.5ポイント悪化した。
		コンビニエンスストア	客足は伸びているが、客単価が大きく落ちている。買い控えているようだ。但し、販売促進セールスの反応は良いので、裏返して考えると価格に敏感な客が増えたともいえる。原因としては、原油や穀物価格の高騰に端を発した物価上昇圧力及び景気の先行き不透明感等が考えられると思う。
		農産物直売所	ガソリン値上げの影響なのか、当店顧客の中心を占める高齢者世帯の動きが鈍っている。そのため来店客数が減少し、売上げが減少している。
悪くなっている	企業	ゲームセンター	客数が減っており、売上げが落ち込んでいる。
		製造業(金属製品)	原材料である鋼材価格の値上がり止まらない。1トンあたりの価格は年当初と比べて3万円程度上がっており、更に上昇中である。また、鉄鋼問屋等の与信が厳しくなってきた。

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由		
良	－	－	－		
やや良く	家計	割烹料理店	普段は企業関係の客が多いのだが、家族連れなど個人的に来店する客が増えてきたように思う。		
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	この時期にしては、思ったより貨物の動きが良い。実績からみても、一昨年、昨年と比べて徐々に数値が上がってきている。季節的な動きとは関係なく、業界全体として在庫が増えているようだ。		
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	市場経済は、血液や河川の流れるようなもので、循環性を改善しない限り、良い方向に変わっていかないと。また、都市と地方の理解度を高め、互いの連携の絆を強めることも必要だと思う。		
		商店街代表者	消費者の購買傾向が大手のチェーン店中心になっているため、地域の零細な小売店には景気変動の影響はあまりないようだ。		
		商店街代表者	3ヶ月前の予想では、景気は段々良くなるかと思われたが、歳末の関係で一時的に好転しただけだったようだ。現状は、前年同時期とあまり変わっていない。		
		スーパー	1品あたりの単価が上がっているため、前年並の売上げを維持しているものの、買上げ点数は前年値を割っている。商品価格が値上がりしている分、節約している可能性があるのではないかと。		
		家電販売店	順調な売上げは確保しているが、前回と比較して良くなっているとはいえない。		
		農産物直売所	客数や客単価は、前年と同水準で推移している。		
		小売業（酒類）	売上高は、前年同期と比較して大きな差異はない。		
		小売業（金物店）	客数、売上げともに変わらない。		
		小売業（書店）	特に目立った変化は見られない。		
		タクシー運転手	乗客との会話では、物価高に関する話題が多い。		
		タクシー運転手	3月は人事異動の時期でもあり多少は売上げも上がると見込まれるが、3ヶ月前は年末年始でタクシー業界にとっては1年で最も忙しい時期なので、とても比較にならない。昨年の3月頃と比べると、乗客数や売上げに大きな変化はない。		
		ドライブイン	原油価格の高騰により、車を利用する客が減少するのではと心配したが、利用客数は例年どおりである。		
		観光名所	灯油や食品など、生活必需品の値上がりは、目に見えないよう徐々に進行している。観光客の様子を見ると、土産物の購入を控えたり、消費行動に対してやや慎重になっているように思われる。		
		パチンコ店	売上げ、入店客数ともに変化が見られず、3ヶ月前と大きく変わっていない。		
		パチンコ店	店舗、商圈の稼働率はほぼ変わっていない。		
		理容店	馴染みの客ばかりなので、売上げには変化がない。		
		住宅販売会社	この3ヶ月で大きな変化はみられない。		
		住宅販売会社	来場者の資金計画は3ヶ月前と大きく変わっていないが、むしろ厳しくなっているようにも感じる。		
		い	企業	農業関係者	農産物の単価が上がる一方で、出荷量が減少しており、収入は3ヶ月前とほとんど変わっていない。
				水産業関係者	漁獲量、加工工場稼働率とも低調に推移している。一部では、中国製冷凍ギョーザの事件に起因した中国製品離れによる需要の増加も見られるが、供給側がすぐには対応できない状況であり、残留農薬検査等の費用負担増もあって、トータルでは変わっていないと思う。
製造業（鉄鋼業）	老朽化した設備の更新や設備投資が依然として旺盛である。				
金融業	貯蓄水準は以前と変わらず推移している。消費意欲は控えめで、最小限に出費を抑える努力を行っているようだ。居宅新築ニーズはあるものの、現実的にはリフォームに留まる等、固定資産の動きはそのものが少ない。また、企業についても積極的な設備投資は稀である。				
不動産業	「賃料の安い物件はないですか」という問合せが、賃貸アパートや店舗を探している客には割合多いように思う。				
サービス業	年度末に向けて、受注は順調である。				
雇	雇用	人材派遣業	鹿島コンビナート内の企業各社は繁忙を極めており、売上げは順調に伸びている模様である。しかし、燃料価格を始めとする間接費用が高騰しており、最終利益は厳しく見通している。		
		民間職業紹介業	相変わらず求職登録者が少なく、求人企業に対する紹介やマッチング率が低い状況が続いている。		
やや悪く	家計	スーパー	値上げする商品が出てくる分、客の買い上げ点数が減ってきている。		
		コンビニエンスストア	年明けから売上げが低下している。商品の値上げやガソリンの高騰などが、やんわり影響している感がある。		
		小売業（薬品店）	原油価格の高騰に伴い、様々なところで物価が上昇している。このため、個人消費が冷え込んでおり、売上げもやや悪くなっている。		

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
やや悪くなっている	家計	衣料品販売店	例年2月中旬頃から、引越しや新入学関連商品の動きが活発になるのだが、今年は客足、客単価とも減少している。	
		洋食食堂	客数が減少している。特に、夜の来店客数の減が顕著である。	
		タクシー運転手	物価が上昇しているためか、運賃値上げの有無にかかわらず、タクシーの利用者は大幅に少なくなっている。	
		タクシー運転手	年度末を控えて、人の動きもいつもより多くなると思ったが、実際は乗客数、利用回数ともに減少している。タクシー料金のことは、値上げをしても現状を維持しても、あまり関係なさそうに感じた。	
		クリーニング店	原油や小麦の値上がり起因して、様々な商品が値上がりしているが、勤労者の給料は上がっていないため、生活を逼迫している。クリーニングの料金も値上げしたいが、現状ではまだ上げていない。	
	企業	製造業（食料品）	あらゆる物が値上げ、又はこれから値上げするという予告見積書が届き、原材料費は確実に上がっている。値上げは避けられないと思うが、新聞やテレビ等を見る限り、物価上昇への対応策などは何も決まっておらず、景気好転など論外な事のように思う。	
		製造業（飼料）	穀物価格が高騰しており、飼料価格の値上げ分よりも原料価格の上昇分の方が大きく、利益が確保できない状況となっている。	
		製造業（印刷・同関連業）	仕事の引合いが減少した気がする。	
		製造業（化学工業）	フル操業が続いているが、原油高騰による原材料の値上りは止まらず、価格転嫁もほとんどできない苦しい状況が続いている。	
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業の決算見通しも、原材料の値上がりや原油高、船賃の値上がり等、業績を悪化させる要因が多く、年初の目標達成が厳しい状況とも言われており、諸悪化要因コストを製品へ如何に転嫁するかで業績も左右されると思われる。また、サブプライムローン問題や国内株式の低調、円高等、企業や個人投資家にとって明るい材料がなく、景気はやや悪くなっていると思われる。	
		建設業	建築基準法改正に伴い、確認申請事務が遅れており、建築着工件数が減少している。	
		運輸業（道路貨物運送業）	景気の良い情報はなく、鹿島コンビナートの火災事故や製鉄所関係工事の減少、ガソリンや軽油の値上げ等、悪い情報ばかり聞こえてくる。	
		保険業	石油関連製品が軒並み値上がりしており、事業者の利益が出なくなっている。	
	雇用	公共職業安定所	原材料価格の高騰による企業収益の圧迫等により、従業員採用に慎重になる企業が増えているようで、新規求人数は3ヶ月前の前年比と今月の前年比を比べると、1.5%減少している。また、対前年同月比は9ヶ月連続の減少が続いている。	
		学校就業関係者	物価が上がり、消費者が買い控えているのか、商品が売れなくなっているようだ。	
		求人開拓員	業者からの話では、原材料費の高騰に対し、受注単価に変化はないため、収支は悪化する一方とのことだった。	
	悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	ガソリン等の価格が高いため、買控える客が多い。
			自動車販売店	当店の販売状況では、コンパクトカーが約8割を占めている。
			小売業（菓子販売店）	全体的に買控えが起こっている。
スナック			以前は、店の前の道や国道51号線を車が走る音が店内からも聞こえていたし、客の動きも少しはあったが、最近18時以降になると辺りは静かになり車の気配すらしない。午前0時をまわると、すれ違う車もない程なので、当然客入りもまばらである。	
日本料理店			1月は予約も多く忙しかったが、2月以降予約が急激に減った。	
観光型ホテル			客の言動や要望の内容から判断して、景気は悪化していると思う。	
クリーニング店			客足が落ちている。売上げも悪くなっている。	
室内装飾業			1～2月に多少受注があったものの、ここ最近では閑古鳥が悲しそうに鳴いている。	
企業	製造業（食料品）	大きい行事やイベントがないため、売上げは落ちている。また、原材料価格の高騰が収益減に拍車をかけている。		
	製造業（化学工業）	ナフサの高騰、減産により、売上減が続いている。		

(4) 県南地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	スーパー	中国製冷凍ギョーザ事件により、中国製品の売上げは落ち込んでいるものの、その分が国産製品へ移行しており、客単価は上昇している。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	売上げが伸びている。
		スーパー	今月は店舗の改装効果もあり、3ヶ月前と比べて売上げが増加した。3ヶ月前の前年比と今月の前年比を比較しても、今月の方がやや上回っている。また、客単価も3ヶ月前より上回っているため、景気はやや良くなっていると思う。
		家電販売店	客単価は下落しているものの、客数が大幅に増加しており、全体としてはやや良くなっている。
		都市型ホテル	3ヶ月前と比べると全体の売上げは減少しているが、前年同月比では増加しており、景気はやや良くなっていると思われる。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスの乗客が増加しているため、タクシー利用者も伸びている。
雇用	公共職業安定所	2月に入って、求人の申込みが多くなっている。	
	学校就業関係者	昨年と比べ就職試験の時期が早まっており、採用内定数も多い。企業側からすると、人材を早く確保したいという意志の表れのように感じる。また、求人票提出企業も増加している。	
変わらな	家計	スーパー	客数や客単価も伸長しており、3ヶ月前と同じ水準で前年値を上回っていることから、変わらず好調を維持している。
		コンビニエンスストア	客単価や買上げ点数に大きな変化はない。
		自動車販売店	就職の時期であり、3ヶ月前と比べると販売台数は増加しているが、市場の伸びは一時的だと思う。
		農産物直売所	1～2月初旬頃までは、ガソリン価格の上昇や諸物価の値上がりの影響により、昨年実績を下回っていたが、中国製冷凍ギョーザの事件以来、前年を若干上回る状態が続いている。
		農産物直売所	利用客の客単価が変わっていない。
		専門スーパー	今冬は、昨年に比べて気温も低く降雪もあり、冬らしい冬だった。原油高騰に伴い、生活関連物資が軒並み値上がりする中、本来なら買い控えをするところだが、いつになく寒かった分、消費が伸びたようだ。しかし、これは景気が良くなっている証ではない。食品も同様で、中国製冷凍ギョーザの事件などにより、「安い物」より「安全なもの」と言う考えから、購入単価が上がっているだけだと思う。マンションの販売状況を見ても、高級マンションは好調でもミドルクラスが低迷しているのは、むしろ景気が良くなっていない証なのではないか。
		和食食堂	現状ではまだ売上げに大きな変化はないものの、昨年の同時期データと比較すると、客数が減少している。特に、家族連れ客の減少が著しい。
		都市型ホテル	業種にもよるが、業績の良い企業は以前と相変わらず利用してくれるが、低迷が感じられる企業は利用を控えているようだ。よって、トータルとしては変わらないと判断した。
		旅行代理店	ツアー申込み状況には変化がない。
		旅行代理店	来店客数はやや減少気味である。しかし、客の申込み内容に違いはあるものの、売上げは前年と同水準をキープしている。
		ゴルフ場	客との会話の中に、景気の良い話が少ない。客同士の会話でも同様のようだ。
		ゴルフ場	1～2月は寒い季節なので、例年入場者数は少ない。更に今年は、雪のためクローズした日もあり、前年同時期よりも入場者数は落ち込んだ。但し、クローズがなければ、前年並みの入り具合だったと思う。
		美容室	少子化のため、成人式等での晴着の着付けサービス等の需要は減少しているが、春休みを利用した記念写真撮影の需要が増加しており、トータルとして売上げは変わっていない。
		建築設計事務所	見積りの依頼はあるものの、仕事に結びつかない。
住宅販売会社	展示場移転により集客は増えたが、購入意識に変化はみられない。		
企業	製造業（食料品）	3ヶ月前は、年末のギフトシーズンであり、物流の最も多い時期である。前回と比較すれば、当然景気は悪くなっているが、前年の同期と比較すると売上げ等に変化はない。	
	製造業（一般機械器具）	これといった変化を感じない。	
	運輸業（倉庫業）	原料の値上がりにより保管貨物は増えている。企業からは増産や売上げが数%伸びたという話も聞かれるが、決して景気が良くなっている状況とは思えない。	
雇用	人材派遣業	派遣のような臨時雇用から、直接雇用への切り替えが進んできている。	
	雇用相談員	交替制勤務で受注をこなしている大・中企業がある一方、仕事量が減少し、廃業する小企業があり、景気の恩恵に片寄りが続いている。	

(4) 県南地域 【現状】

(-: 回答が存在しない。 ○: 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなる	家計	スーパー	物価の上昇により、利益が低下している。
		スーパー	商品の売価が上がり、消費者は安価な商品や日替りの特価商品を中心に買い物をしているようだ。
		コンビニエンスストア	来店客数は増加しているが、売上げは伸びていない。買上げ点数や客単価は前年を下回っている。
		衣料品販売店	今年はうるう年で、営業日が1日多かったにもかかわらず、2月の売上げは前年と同水準であった。1日あたりの売上げとしては前年を下回っており、景気はやや悪くなっていると思う。
		ガソリンスタンド	ここ3ヶ月、本県のガソリン価格は全国でも屈指の安さを維持している。常識的に考えて、経営が成り立たない価格で販売している状況であり、このままの安値販売競争が続けば、体力の弱いガソリンスタンドが自然淘汰されるのは間違いないと思う。
		洋食食堂	とにかく客足が伸びない。一時的にイベントがある時は良いのだが、それ以外の時は客足が鈍い。
		洋食食堂	画商を営む客は、都内の有名デパートで絵画の販売会を開催したが、「本当に売れない」と話していた。また、近所の大型複合施設内にも空テナントが目立つ。1年くらい空室のままの賃貸アパートも散見される。知人のビルも、賃料を値下げしても全く借り手がいないらしい。
		寿司店	客からも、市場の関係者からも、景気の良い話はほとんど伝わってこない。
		タクシー運転手	客の動きが悪い。
		タクシー運転手	地域への客の流入が、流出に比べ格段に少ない。若者はこの傾向が特に顕著である。
	パチンコ店	売上げや稼働率が少しずつ落ちている。	
	レジャー施設	水辺のレジャーのため、冬季は例年客数が減少する。	
	悪くなっている	企業	農業関係者
製造業（食料品）			年末は食料品の売行きが好調な時期であり、この頃と比べると商品の動きは良くない。
製造業（食料品）			年末頃よりも比較的暇な時期であり、売上げもやや悪くなっている。
製造業（印刷・同関連業）			物価が上昇しているものの、製品価格への転嫁が難しいため、多少利益に影響が出てきている。
製造業（窯業・土石製品）			原油や鋼材の値上げ要求には応じざるを得ないが、当社は公共事業関連製品を製造しており、低価格入札という業界の流れに対応するため、土木業者に販売する際には製品価格へ仕上り分を転嫁することは難しい。
製造業（窯業・土石製品）			原油の値上がりの影響が、農作物や他の原材料、日用品にまで波及してきており、コスト削減分を上回りつつある。
製造業（非鉄金属）			3月受注による売上予想は、対前年比で13%程度増加の予定だが、前年度の実績前年比は▲10%あり、それほど回復感はない。一方、アルミ材料は高値で安定、溶解ガスも高値傾向にあり、加えて、その他の工場消耗品についても値上げ要請が目白押しのため、実質的には減収減益である。
建設業			年度末という時節柄、多少仕事はあるが、3月末頃には相当ダウンするのでは…という声があちらこちらで聞こえる。
建設業（設備工事業）			仕事量が全体的として減少しており、建設業者が廃業に追い込まれるケースが増えている。
金融業			原油高騰の影響から、原材料の値上げに困っているという話を聞くようになった。
不動産業	供給過剰により価格が下落、取引件数も減少している。		
悪くなっている	企業	雇用 求人広告	一部の企業では人材確保を必要としているが、多くの個人企業では利益が上がらないので募集も減ってきている。
		製造業（食料品）	納品先や仕入先では、以前にも増して合理化が続いており、製造業は大変厳しい状況である。製造コストが増加しているうえに、売上の増加が望めない現状では、いよいよ社内リストラをしなければならないかもしれない。
		建設業	例年1～3月は、年度末ということもあり、この時期の受注が年間の60%位を占めるのだが、今年を受注が少なく、今後の受注もあまり期待できない。
		建設業	原油価格高騰の影響でコストが上昇しているが、受注競争に勝つために価格を抑えざるを得ないため、受注しても利益を見込むことが難しい。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	スーパー	季節の催事が多くなり、春を感じて消費者の気分も高揚しているためか、売上げは3ヶ月前と比べて伸びている。
		タクシー運転手	料金の値上げにより、売上げが伸びている。
		ゴルフ場	売店やレストラン等の付帯単価は相変わらず伸び悩んでいるものの、前年と比較し予約状況は良好である。
		理・美容店	客の来店周期が早くなっている。
	企業	農業関係者	直売所の売上げは上昇傾向である。
製造業（電気機械器具）	求人広告を出しても、中々人が集まらない。		
サービス業（広告業）	1～2月は低調だったが、その分を取り戻すくらい大きな受注が3月に来ており、3ヶ月前と比べてやや良くなっている。		
雇用	求人広告	求人広告の掲載企業が多い。	
変わらない	家計	スーパー	現状では、売上げデータ等に大きな変動はない。特徴的な動きとしては、日替りの低価格商品の売行きが好調である。
		専門スーパー	売上げには変動がない。春の需要品も昨年と比べ動きが少ない。
		ガソリンスタンド	3ヶ月前と比べて特別変化はないように思う。
		和食食堂	売上げはアップしているが、仕入れ価格も上がっているため、収益としては変わらない。
		タクシー運転手	景気の変化が見られない。
		ゴルフ場	予約状況や来場者の状況、活気を見ていると、3ヶ月前と変わりないように思う。
		ゲームセンター	1日の集客数や売上げを見ると、3ヶ月前とそれほど変わらない。
		レジャー施設	人の動きが良くない状況が続いている。消費者の財布のヒモも相変わらず固い。
		建築設計事務所	現状に手詰り感はあるものの、3ヶ月前との比較では大きな変化はない。
	住宅販売会社	相変わらず来店客数が増えない。	
	企業	製造業（印刷・関連業）	年度末を控えて、もっと忙しくあつてしかるべきところだが、受注は3ヶ月前と変わらない。街中も活気がなく、静かそのものである。周辺ではマンション建設ばかりが目につくが、その割に人口は増えていないようだ。食料品の値上がりも、インフレの前兆か不況の前兆のようで気にかかる。
		製造業（窯業・土石製品）	昨年末以来、当業界では明るい兆しが見当たらないまま推移している。
		製造業（窯業・土石製品）	「仕事が無い」、「景気が良くない」という声を耳にすることが多い。得意先や仕入先の業者、業界の関係者など多くの人達が口を揃えて言っている。当社では、売上げが若干落ちているものの、ほぼ変わらない状況である。
製造業（金属製品）		引合い件数は平均的であり、納入ロッドも同様である。	
製造業（一般機械器具）		毎日が納期で仕事に追われているが、売上げは芳しくない。だが、取引先数社の様子は良いように見える。	
不動産業		3ヶ月前と比べ売上げ等に大きな変化はないものの、不動産の売買金額と住宅ローン金利に底値感があるのか、住宅の購入を希望する客が増加してきている。	
雇用	学校就業関係者	昨年と同じように求人が出ている。	
	就職相談員	中小企業の人材不足は続いているが、社員を教育する余裕がないため、経験者の募集が多い。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	郊外に新規出店したショッピングセンターに客が流れているのだろうか、街中の人や車の往来はめっきり少なくなった。
		コンビニエンスストア	天候が安定してきたにもかかわらず、客数、客単価とも伸長しておらず、食品1つ購入するにも衝動買いすら見られない。
		家電販売店	3月は新入学の時期のため、売上げは若干回復傾向にあるものの、食品を中心とした物価高騰により、消費全体が停滞しているように思う。
		自動車販売店	例年であれば最大の需要期にもかかわらず、想定したほど売れていない。
		農産物直売所	客数、売上げとも低迷している。安価な商品しか売れていない。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
やや悪くなっている	家計	和食食堂	小麦等の値上がりに伴い、食料品の価格が次々に上がっており、家計が苦しくなった影響から、外食費が減少していると思う。客単価も下がっている。
		和食食堂	忘年会・新年会シーズンが終わったことに加え、物価上昇等に伴い客足が減少したため、売上げ等はやや悪くなっている。
		都市型ホテル	原油高騰の煽りを受け、燃料やビールなどの仕入れ品が次々に値上がりして大変である。また、集客数も減少している。物価が上昇しているため、客も利用を控えているのかもしれない。
		都市型ホテル	年度末にしては、人の動きが悪いように思う。利用企業の話では、今年は例年に比べて設備投資が少ないらしい。
		旅行代理店	オフシーズンなので予約が少ないが、昨年同月と比べても悪い。
		タクシー運転手	年が明けて日も経ち、世間も落ち着いてしまい、仕事が減少している。運賃値上げの影響もあるかもしれない。
		タクシー運転手	営業回数や乗車内容については、相変わらず低迷を続けているものの、大きな変化は感じない。しかし、商店街やスーパー等の買物客から「食料品を始め、一般生活用品が次々に値上がりしており、支出が増えているため、家計が苦しくなっている」という声をよく聞くようになった。
		ドライブイン	土産品のまとめ買いをする客が減少しているうえ、単価の安い商品を購入する人が多い。ドライブインの利用者数も前年同期と比較すると減少している。
		ドライブイン	客数、売上げともに少なくなっているように思われる。
		理容店	地域柄、車が必要不可欠なので、ガソリン価格の値上がりにより消費が抑えられているように感じる。
クリーニング店	原油高騰に伴い、生活用品が軒並み値上がりしている。数量限定品を購入するために、家族で手分けしてレジに並ぶ姿をスーパー等で見かけるのも当たり前になった。必死で家計を節約しているのがよくわかる。		
い	企業	農業関係者	資材等の値上がりにより、収益が減少している。
		製造業（食料品）	中国産冷凍ギョーザの事件が起こってから、食に対する不安は日に日に高まるばかりだ。食品加工を生業とする者にとっては、逆風ばかりの状態である。
		製造業（化学工業）	例年通り12月～2月頃が売上げの底になった。昨年10月～12月と今年1月～3月を比較すると、約10%近く受注が落ちている。
		建設業	原油高騰に加え、政治のねじれ・空洞化、地域格差などの現状を見ると、景気はやや悪くなっていると感じる。
		運輸業（道路貨物運送業）	物流の動きが悪い。
		サービス業（コンサルタント業）	建設業界に係わる職人達は、全く仕事がなく、ここ数ヶ月遊んでいる状態だときく。やはり、裾野の広い建設業界が元気にならないと、景気は良くならないのではないかと。
雇用	公共職業安定所	製造業で求人が減少していることに加え、新規求職者が増加していることから、雇用環境はやや悪化している。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	セールの時でも、必要なものしか買わない客が多くなった。安いからといって、ついでに買うことが少なくなった。
		コンビニエンスストア	買上点数や購入単価の下落が進んでおり、これまで以上にシビアな買物をする客が増えている。
		衣料品販売店	昨年12月以降、ガソリン価格の上昇に伴って売上げが減少している。年が明けても、最近の強風のためか、客数は減少傾向で、売上げは対前年比80%台に止まっている。今年ほうう年で、昨年より営業日数が1日多いにもかかわらず、3/2時点での対前年比は90%台であり、良くなる兆しが見えない。
		和食レストラン、割烹	1月初旬に株が暴落して以来、経済がおかしい気がする。バブルが弾けた時と似ているように思う。当店では、1月以降、特に2月は、売上げ・客数ともに前年を大きく下回った。
		パチンコ店	地域人口の減少に伴い、パチンコの遊技人口も減少傾向にあり、3ヶ月前と比較して売上げが低調である。
		企業	製造業（食料品）
金融業	依然として、原油高が収益を圧迫しており、今後景況感更に悪化すると思われる。		
雇用 人材派遣業	仕事の量が不安定で困っている。2～3ヶ月程度しか仕事がない。		

Ⅲ 景気の判断理由 — 2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	スナック	3月末～4月初旬にかけては異動時期であり、気候も温暖になるので、外出や飲食の機会が増えると思う。また、6月には夏のボーナスも支給されるので、売上げは現状に比べてやや良くなるのではないかと。
		タクシー運転手	工場関係の客を乗せると、仕事は結構忙しくなってきたと話しているので、この先は多少期待が持てるのかもしれない。
		タクシー運転手	年度の切り替え時期となり、企業の歓迎会や学校の入学式等、人の動きとともに売上げもやや良くなると期待している。
		美容室	年度始めて人の移動があり、これに伴い来客数も増加すると思われる。
	企業	林業関係者	入梅時期となり、素材入荷が多少減少するため、需要と供給のバランスがとれ、価格的にはやや良くなるのではないかと。
		水産業関係者	水産関係の研究機関の発表によれば、今年は例年と比べ、暖流の接岸傾向が強くなり、暖流を好む魚の出現が顕著に見込まれるとの予想である。この情報どおりであれば、沿岸漁業は中漁程度で推移すると思われる。
		製造業（電気機械器具）	今後も受注案件があること及び新卒採用人数が業務消化に伴い増加していることから、景気はやや良くなっていると思う。
		製造業（電気機械器具）	夏向け製品の受注が入ると見込まれるため、やや良くなると思う。
		製造業（電気機械器具）	来期の輸出案件が増え見込みとの情報が入ってきたので、やや良くなると思う。
	変 わ ら な い	家計	衣料品販売店
自動車販売店			現状から判断して、景気が上向くと思える市場環境にはない。
小売業（酒類）			地元大手企業の仕事量増加に伴い、従業員の残業が増え、忙しすぎて飲食店への足が遠のいている。よって売上げは、現状と変わらず厳しいと思う。
小売業（靴製品）			売上げは横這いか、やや悪くなるかもしれない。
レストラン			今後更に悪くなるのかもしれないが、せめて変わらないでほしいと思う。
居酒屋			3ヶ月先の売上げも、現状と同程度だと思う。
和食食堂			客単価はあまり変わらないと思うが、今後は仕入れ値が上がると見込まれるので収益確保が大変になると思う。
旅行代理店			特に県北地区では、景気の良い話が出てこない。
タクシー運転手			例年であれば、6月は3月頃と比較して「やや悪くなる」と回答するのだが、今年は3月があまりにも悪かったため、これ以上悪くなることは逆に予想しにくい。今が底であると考えれば、「やや良くなる」と回答しても良いのかもしれないが、地元企業の業績も良くなる兆しが見えないため「変わらない」と回答する。
ドライブイン			対前年比割れしない程度の売上げが確保できれば良いが、物価上昇は今後も続きそうなので、先行きに期待はできない。
ゴルフ場			4～5月の予約状況を見ると、土・日・祝祭日を中心に、現時点で前年度比110%の客入りを見込んでいる。あとは、平日に如何に客を集めるかが今後の課題である。各ゴルフ場とも、平日の料金には幅を持たせ、様々な取り組みを行っているが、来場者獲得は難しく、今までどおり平行線と予測される。また、世界情勢と株価の変動も、先行きの不安材料として気にかかる。
ゲームセンター			良くなってほしいのは当然だが、悪くならぬよう努力するのみである。
レジャー施設			団体利用者の電話問合せ件数や予約件数が減少している。1人あたりの消費単価だけでなく、利用者数も前年を下回りそうだ。
住宅販売会社			景気に対する明るさはまだ見出せないが、悪くなっているとも感じられない。3ヶ月程度で何か変化があるとも思えない。
企業	製造業（輸送用機械器具）	原油や鉄鉱石の高騰に伴い、仕入先のメーカーからは値上げを要請される一方で、顧客に対する値上げ交渉は難航しており、収益の確保が厳しい。この環境が大きく変動するとは予想しがたく、逆に厳しきは増す傾向にある。	
	金融業	日立地区の景気は、地元大手企業の業況に大きな影響を受けるが、現状では当企業の受注が増加した等の話はあまり聞かない。	
	不動産業	景気の不透明感が顧客の購買意欲を鈍らせる要因となっており、短期間では改善が望めないと思う。	
雇用	学校就業関係者	採用計画を縮小する方針の事業所は少ないように思う。	
	求人開拓員	地元大手企業関連の下請け事業所では、受注残はあるものの、専門技術者が不足しているため、実益に結びつけることができないでいる。	

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなる	家計	商店街代表者	中心商店街にある2つの大型店のうち、1つの店舗のテナントが、商店街より少し離れた新店舗に移転するらしい。大型のテナントだっただけに、中心商店街の集客にも影響を与えそうである。反対に、景気回復の好転材料は見当たらない。
		スーパー	値上げは今後も続きそうなので、先行きの景気はやや悪くなると思う。
		スーパー	値上がりした商品もあるので、今後更に購入量は減少するのではないかと。
		スーパー	消費者の自己防衛反応として、買控えは今後も続くと思われ、景気の先行きについては不透明である。
		コンビニエンスストア	物価の上昇や食に対する不安感により、消費者の財布のヒモは固くなっている。現在の消費環境が変わらない限り、景気は悪化するだけだと思う。
		衣料品販売店	石油や小麦等の原材料の値上がりにより、商品によっては消費に繋がらなくなると思う。その影響で、衣料にも買い控え傾向が広がるのが懸念される。
		家電販売店	原材料の高騰により、製品原価が上がり、今後は商品の値引き幅も限られてくるだろう。その影響で、売上げが低下することを懸念している。北京オリンピックはプラス要因だが、その効果については判断が難しい。
		農産物直売所	燃料、食料品価格の高騰により、家計は厳しくなる一方であり、先行きの景気はやや悪くなるのではないかと。
		小売業（水産物）	各方面で値上がりが続いており、消費の冷え込みが予想されるため、景気はやや悪くなると思う。
		居酒屋	客数の減少だけでなく、石油関連商品やビールの値上げ等、仕入れ原価そのものが上がっており、利益が取りにくくなっている。
		観光型ホテル	燃料を始め、食品類の値上げが続いている。この値上げ傾向がいつまで続くのか、先が見えず不安である。消費者も自己防衛的な行動に出ると思われ、消費も落ち込むのではないかと。
		観光型ホテル	年間を通して、6月と9月は来場者数が少ない。
		観光型ホテル	宿泊予約は前年同様に入っているが、日帰り宴会の予約は減少している。また、宴会コースよりも安価なメニューを選択する客が増えており、景気はやや悪くなる予想する。
		タクシー運転手	燃料費の高騰が今後どのように影響してくるのか、当社でも心配している。
		い	企業
理容店	原油高騰の影響は、当店だけでなく、全ての来店客の仕事にまで及んでいる。		
製造業（食料品）	生産能力には多少余裕があるのだが、原料価格の高騰分を製品価格に転嫁できない状況では、受注増は見込めない。		
製造業（電気機械器具）	受注の減少に加え、鋼材の値上げにより更にもう一段階値上げをしたい旨の強い要請が仕入先からきている。また、鉄を使用した仕入製品にも値上げの兆候が出ており、鋼材同様に値上げの方向に進むものと思われる。3ヶ月後は、値上がりする製品が今以上に増加・拡大し、経営を圧迫すると予想される。		
製造業（電気機械器具）	3ヶ月後は、北京オリンピックが間もなく開催される時期ではあるが、現状を脱するまでの勢いはないと思う。		
製造業（電気機械器具）	北京オリンピックに向け、中国を中心に活発な投資が行われてきたが、夏以降からは減速に向かう可能性がある。また、原油やレアメタル等の原材料費高騰による不安定要素が大きいと、先行きはやや悪くなる判断せざるをえない。		
悪くなっている	雇用	建設業	最近まで積極的に設備投資を行ってきた顧客から、業況に翳りが見え始めたという話を聞いた。また、原材料等の値上がりも著しく、先行きはやや悪くなると思う。
		情報通信業（情報サービス業）	先行きの不透明感から設備投資が減少すると予想され、更に景気は悪くなっていくと思う。
		人材派遣業	設備投資も一段落したようなので、急な人材の必要性は薄れてくるだろう。
悪くなっている	家計	求人広告	今の状態を維持できるかという点、なかなか難しいと思う。人口の増加や活性化対策など、先行き良くなる見込みもなく、景気はやや悪くなっていくのではないかと。
		公共職業安定所	原油高の影響により原材料等価格が高騰しているにもかかわらず、製品価格に転嫁できず収益を圧迫している企業も出始めている。
		コンビニエンスストア	物価の上昇や原材料費の高騰により、今後コンビニエンスストアでも価格を上げざるを得なくなっていくだろう。そうなった場合、買い控え等により、売上げが落ち込む可能性を懸念している。
悪くなっている	家計	ガソリンスタンド	価格競争に陥っているうえ、店舗によって仕入価格差があるのは明らかであり、今後のことは不透明である。
		クリーニング店	原油高の影響でクリーニングに関する全ての材料が値上がりし、利益を圧迫している。今後も原油高は続きそうなので、業界の景気は更に悪くなると思う。

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	専門スーパー	メーカーや問屋、小売店で抑えていた商品の値段が、ここに来て抑えきれず、確実に上がり始めている。これに伴い、客の買上げ単価も上昇傾向にあるため、単純に考えれば売上も上がると予想される。
		ファミリーレストラン	例年、4月以降は今よりも客数が伸びるため、売上げ等はやや良くなると思われる。また、新メニューが始まるため、その効果にも期待している。
		ドライブイン	原材料価格の値上げに伴い、仕入れ食材も今後値上がりすることが見込まれる。これに伴い、当店でも売価を見直す予定である。最近、食の安全に関する話題が多く取り上げられるようになり、消費者の「食」に対する視線が厳しくなる一方だが、売り手としては、安全な食材を用いた商品を、適正な価格で勝負できるようにするため、真面目にやっている事業者にとってはむしろ好機かもしれない。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	3～6月くらいまで、飛び込みで工事受注ができたため、3ヶ月先も忙しい状況にあると思うが、必ずしも全体的に需要が増えてきた状況ではないと思う。
製造業(金属製品)		3ヶ月先には、鋼材価格も落ち着くと思う。	
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	購買人口も減り、所得も減り、通行人・通行車両とも減り、小売業にとって景気の良くなる要素がない。
		百貨店、総合スーパー	株価の下落による宝飾品等高額商品の売行き不振や、原材料価格の高騰に伴う食料品等の相次ぐ値上げが、消費意欲を押し下げる一因になっているようだが、このような傾向は今後も継続すると思われる。
		百貨店、総合スーパー	景気が上向く理由がない。
		コンビニエンスストア	今後景気が好転する理由がない。
		家電販売店	今年はオリンピックイヤーだが、開催国である中国のイメージがあまりにも悪すぎ、需要には結びつかないと思う。
		自動車販売店	急に変化すると思われる材料が見受けられない。
		農産物直売所	気温が上がり、行動しやすい季節となるが、小麦等の値上げやガソリン価格の高止まりが続くと、前年程の来客数を確保するのは難しいかもしれない。ただ本店では、客単価が上がっているので、何とか前年並の売上げは維持できると思う。
		都市型ホテル	単価の低い商品を少ない品目のみ購入する消費傾向は、3ヶ月先も変わらないと思う。
		都市型ホテル	ガソリンや食材等の値下げがあれば回復するのかもしれないが、現実には厳しいと思う。
		タクシー運転手	代行利用者が増加する一方で、タクシー利用者は減少しており、景気が良くなっても、タクシー業界の先行きは不透明である。
		タクシー運転手	梅まつりのようなイベントもなく、平均的に推移すると思われる。
		観光名所	予約状況は前年並みである。特に良くなる材料がないため、現在と変わらず推移すると思う。
		ゴルフ場	ゴルフシーズンに向かうため、予約数は増加すると思われるが、現在の予約状況を見る限り、客単価は上昇傾向を示していない。
		レジャー施設	3～4月にかけて、北関東自動車道の一部開通が相次ぐので(伊勢崎IC～太田桐生IC:3/8開通、宇都宮上三川IC～真岡IC:3/15開通、桜川筑西IC～笠間西IC:4/12開通)、群馬県・栃木県からの観光客が増えるのではないかと期待している。キャンペーンを行った群馬県での聞き取り調査でも、茨城県へのアクセスが良くなるので開通を期待している声は多かった。
	理容店	本店では、店主1人で切り盛りしており、経費がかからないため、何とかやっている状態である。4～6月頃は異動時期でもあり、僅かでも来客数が増加するのではないかと期待している。	
	建築設計事務所	原油高の影響がもろに建築材料の値上がりに跳ね返っているにもかかわらず、工事価格の値上げはできない状況にある。しかし、3ヶ月程度では大きな変化は見られないと思う。	
	住宅販売会社	お客様の反応からも、特に変化が見受けられない。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	特に目立った要素が見当たらない。
		製造業(一般機械器具)	現在の状況で変わらないでほしいと思う。ただ、燃料はあらゆる面で関連してくるので、今後のガソリン価格の動向は心配である。
		製造業(精密機械器具)	昨年末に発売した新製品の引き合いが順調である。また、長期間在庫となっていた3機種種の在庫製品も、ここに来て受注となり、1機種1台のみとなった。水面下で設備投資が進んでいる様な感じを受ける。
運輸業(道路貨物運送業)		取引先メーカーの様子を見ると、原材料高によるコスト増分を、製品単価に転嫁できるかどうかで苦慮しているようだ。	
情報通信業(情報サービス業)		円高による株式市場への影響、原油高、サブプライムローンの問題等、グローバル化により生じる多くの懸案事項を抱え、かつ心理的な影響もあり、余程のカンフル剤でもない限り、景気回復は夏以降になると思われる。また、業種・規模・地域による企業間格差の拡大が一層感じられるようになっており、否応無しに、各企業とも生き残りをかけた戦略の遂行が必要となるだろう。しばらくの間、景気は一進一退を繰り返すのではないかと。	

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	不動産業	来客や電話、Eメール等での問合せ件数が若干減少しているものの、劇的に変化している訳ではないので、先行きは大きく変わらないと思う。
	雇用	人材派遣業	例年受注が伸びる、年末・年度末が今ひとつだったことを鑑みると、それほど大きな期待は抱きにくい。しかしながら、紹介予定派遣（社員を求めている企業で、まず派遣スタッフとして働き、派遣期間の終了時に双方の合意があれば、社員として採用する仕組み）などはこの先も伸びてくると予測されるうえ、4月から執行される新予算にも淡い期待を持ちたい。
		公共職業安定所	原油価格の高騰により、運送業や製造業は厳しい状況であり、事業縮小や人員整理を行う企業が増加することが見込まれる。失業者もでると予想されるが、今後郊外に出店を計画している企業や店舗があるため、こちらでの雇用を見込むと、トータルでは大きな変化はないと思う。
		学校就業関係者	主立った就職情報産業の大学担当者からは、今後3ヶ月の間での、景気後退や採用手控えの情報は入ってきていない。
	求人開拓員	事業所訪問では、先行きが明るい話題は一切聞かれない。景気が良くなる要因が全くない。	
やや悪くなる	家計	商店街代表者	円高による影響が出て、景気が後退すると思われる。
		スーパー	原油高騰に伴い、色々な商品の価格が上昇し、消費支出が減少している。
		スーパー	食品に限らず物価が上昇しており、当店強みの衣料品に買い控えが予想される。
		スーパー	4月に小麦粉の原価が上がれば、数多くの商品で値上がりが発生すると見込まれ、売上げ等はやや悪くなると思う。
		コンビニエンスストア	小売価格の上昇が、客の消費意欲を著しく鈍化させているように感じる。顕著な例として、買上げ点数が落ちている。
		専門スーパー	相次ぐ値上げの中、作業に必要な材料や農業資材などの購入は例年どおり行われている。出費の帳尻をあわせるため、今後の消費が鈍るのではないかと懸念している。
		レストラン	原材料の値上がり等により、メニューの価格変更を検討せざるをえないが、客入りや売上げに影響が出る不安がある。
		割烹料理店	昼食も、飲食店で食べるより、手軽に早く食べることができるため、弁当等に押されている。
		観光型ホテル	4月以降、物価上昇や企業業績の悪化が個人消費にも影響するものと思われる。
		旅行代理店	原油高騰が収まる様子もなく、海外旅行には向かい風状態が続くそうである。国内旅行が前年並みに推移すると想定しても、トータルではやや悪くなると思われる。
		タクシー運転手	乗客との会話の中で、ガソリン単価の高止まりや食品の値上げラッシュにより、消費を控えているとの声が多く、この先かなり景気に影響がでると予想される。タクシーの売上げも減少するだろう。
		ドライブイン	道路状況が良くなったこともあり、水戸を通過して他の行楽地へ向かう車が増えたように思う。以前に比べて、立ち寄り客なども少なくなっている。6月頃は、梅も終わり、花のない新緑の時期になるため、客入りは期待できない。
悪くなる	企業	製造業(食料品)	物価の値上がりによる影響が考えられるため、やや悪くなると思う。
		建設業	マンション等の売行きが鈍化しているが、改善策が見当たらない。
		金融業	厳冬から暖かい春、初夏を迎えれば冷え切った消費者心理も改善されるとの期待もあるが、景気上昇に向けて足かせとなっている問題が改善される見込みは薄く、また経費削減も計画どおりには捗らないだろうと予想されることから、利益率アップは期待できず、景気はやや悪くなると思う。
		サービス業(広告業)	新年度(4月)からの販促予算は、ほとんどが削減の傾向にある。特に、流通小売業は販売実績が伸びておらず、広告経費を圧縮する傾向がある。仕入れ原価の上昇に対する企業努力もそろそろ限界なのではないか。
		サービス業(コンサルタント業)	顧客先の飲食店においては、食材や包材の仕入先から値上げを求められている。現状では全てを価格に転嫁できないので、収益は必ず悪くなる。
雇用	求人広告	人事採用に関しては、少し消極的になっているように思う。	
悪くなっている	家計	レストラン	最近の客の様子を見ていると、食品等の物価上昇が原因で、消費を控えていることが感じられる。
		タクシー運転手	商店街や飲食店等の全般的な様子として、人出が少ない傾向は続いており、この先消費が上向くとは考えられない。
		ゲームセンター	客数の減少傾向は、今後も一層と強まると思われる。
	企業	製造業(食料品)	原材料、資材、燃料等のコスト上昇分を製品価格に転嫁できず、加えて製品需要が減少しているため、今後更なる売上減少につながっていくと思う。
製造業(印刷・同関連業)		仕入先から原材料費の値上げを宣告されているので、今後は更に収益が圧迫されるだろう。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	企業	建設業	鹿嶋市大野地区が市街化調整区域に指定されるため、駆け込みの着工需要が増加するのではないかと予想している。
やや良くなっている	家計	スーパー	春闘の交渉次第では、ベースアップ等で賃金が少し上がるかもしれないので、それに伴う消費の拡大を期待したい。
		家電販売店	買い替えや新規購入に慎重さが見られるものの、店舗内外の状況の変化により、客数の増加や購入意欲の向上に期待はできる。
		小売業（書店）	目立った変化は見られないが、客の様子からは、気持ちに余裕のある人が増えてきたように思う。よって、今後景気はやや良くなってくると思う。
		観光型ホテル	予約が少し増えている。
企業	運輸業（道路貨物運送業）	「新年度から景気は悪化する」という話を耳にするが、少しずつではあるものの、貨物の動きは上向きになっていくと思う。少なくとも、極度に動きが鈍ることはないのではないか。	
変	家計	商店街代表者	昨年末の時点では、景気は徐々に良くなるかと思われたが、最近の様子からは景気は元に戻った感じがする。今後も、特段のことがない限り変わらないのではないか。
		自動車販売店	3ヶ月程度では大きな変化はないと思うが、全国的に子供の数が減少しているため、これから5年先・10年先の業態は先細りするのではないか。特に流通分野の影響は大きいと思う。
		農産物直売所	ギフト用メロンの予約件数が前年並みなので、それほどの変化はないと思う。
		小売業（薬品店）	今後半年から1年くらいは、現状のまま変わらないのではないか。
		小売業（金物店）	特別変わる様子がない。
		割烹料理店	個人で利用する客は支出を惜しまないようにしてきたが、企業関係の団体客は相変わらず予算を抑え気味のように感じる。
		日本料理店	行事・催事が色々と増える時期なので、現状よりは上がってくると思う。但し、最近の客の様子を見てみると、単価を低く抑えようとする傾向があるので、客単価は下がってくるのではないか。
		タクシー運転手	陽気が良くなり、人や物の動きも活発になると思われるが、季節的な要因を除けば、3ヶ月後に景気が良くなってくるとは思えない。従って、景気は現在とそれ程変わらないのではないか。
		タクシー運転手	企業の人事異動でタクシーが利用されやすい時期だが、最近タクシーの利用は減少し、自動車運転代行業者に客が流れている。
		タクシー運転手	5～6月は、鹿島臨海工業地帯に所在する企業で定期修理が行われるため、大勢の工事関係者が来訪する。ただ、昨年の同じ時期にも売上げはあまり上がらなかったため、今年も期待はできない。
		ドライブイン	非常に大きな経済ショックがない限り、影響はないと考えている。
		観光名所	最近、特に食品で、価格は据置きだが内容量を減らした商品が目立つ。また、中国製冷凍ギョーザの事件後、ギョーザの材料となる野菜や食品の価格高騰が一部で見られた。
		パチンコ店	今後3ヶ月も環境に大きな変化が起こるとは考えにくい。活動しやすい季節にはなるが、景気は変わらないと思う。
		パチンコ店	現時点で下げ止まりのようにも思われるが、3ヶ月程度では大きな変化はないのではないか。
		理容店	余程のことがない限り、客層に変化はないと思うので、売上げも例年並みだと思う。
		住宅販売会社	今後も大きな変化が見られるとは思えない。
住宅販売会社	原油高や生活品全般の値上がりで、実生活がどんどん圧迫されていると感じる。このままでは今後、消費が伸び悩むのではないかと危惧している。		
な	企業	農業関係者	農産物の単価が上がっており、先行き良くなると期待したいが、農業は天候に左右される可能性があるうえ、燃料費の高騰も続いている状況では、景気の好転は期待できないと思う。
		水産業関係者	漁獲規制等により漁獲量の大幅な増加は見込めず、現状のまま推移するものと思われる。
		製造業（窯業・土石製品）	時期的に春季交渉の会社回答が行われているが、昨年を上回る回答はない。だが、各産業とも原材料の高騰や原油高、船運賃の値上がり等のコスト悪化及び国内株式や円相場等の今後の見通しを総合的に判断した結果と思われるので、平成20年度前半の景気も現状と大きく変化する要素はないと思う。
		製造業（鉄鋼業）	原材料の高騰という問題があるが、急激な変化はないと思う。
		運輸業（道路貨物運送業）	昨年末のコンビナート火災で停止中だったプラントが3月中旬にも一部操業を開始するようだが、製鉄所関係では大きな変化はないようなので、鹿島地区として総体的な変化はなさそうである。
		金融業	大手企業の景気回復はあっても、消費者の懐が潤うまでには至らないと思う。将来のライフスタイルを立案できない状況は続き、今後も消費者の財布のヒモは固いまなのではないか。
		不動産業	土地の購入にあたり、価格がかなり抑えられている。
サービス業	全体的には、大きな変化はないと思う。		

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変わらない	雇用	人材派遣業	売上げは順調に伸びるものの、原燃料価格を始めとする間接費用の高騰は続くと思われる。よって、最終利益も厳しいまま変わらないのではないか。
		民間職業紹介業	求職者や登録スタッフが不足する状況は今後も続くと思われ、職業紹介業としては先行きは大変厳しいと予想される。
		学校就業関係者	ガソリン等の価格が下がらないと、景気は良くならないと思う。
		求人開拓員	業者の話では、3ヶ月先においても、仕事量に変化はなく、経営状況は現状と大して変化はないだろうとのことだった。
やや悪くなる	家計	商店街代表者	景気浮揚策で大切なことは、あらゆる業種の懐具合を豊かにすることである。それはやり方次第で可能なはずであり、行政には円滑で頭腦的な手腕と仕掛けが期待される。情報化社会では、善かれ悪しかれ物事が消費の末端までダイレクトに影響するのが特徴である。現代にあっては、国内・県内のこととはいえ、外国人を凌ぐ高次元の手腕が必要となる。
		商店街代表者	原材料や燃料費の高騰に伴い、企業収益が悪化し、経営が厳しくなるのではないか。また、消費者の財布のヒモも固くなると思う。
		スーパー	3月頃から値上げされる商品が増えるため、買上げ点数や売上げは、現在より更に低下するのではないか。
		コンビニエンスストア	物価高に対して賃金の上昇は見込めず、不景気だという声が多いことから、無駄な出費を控える傾向は続くと思われる。
		小売業（菓子販売店）	石油関連の製品が値上がりしているが、この傾向は今後も続くと思われる。
		小売業（酒類）	食品だけでなく、2～4月にかけてビール類も値上がりする予定であり、買い控えが予想されるため、売上げもやや悪くなるのではないか。
		洋食食堂	食材の値上がりが続いている。値上がりだけなら致し方ないが、最近は欠品の商品まで出始めている。仕入れ値の上昇分を売価に転嫁できない以上、利益幅は減少していく。
		タクシー運転手	石油高等に伴い、今後も多方面で物価の上昇が見込まれるため、この先景気が良くなるとは思えない。また、平成20年4月1日から、鹿嶋コミュニティバスが増発される。病院やスーパーなどを廻るため、タクシーの売上げは更に減少するのではないかと心配している。
		クリーニング店	石油や小麦の価格は今後更に上がると見込まれ、現在値上げしていない商品もこれから値上がりするだろう。クリーニング料金の値上げも検討せざるをえないかもしれない。
		室内装飾業	リフォームや新築の物件が、周りを見ても非常に少ないため、この先も景気は悪くなるのではないかと。
変わらない	企業	製造業（食料品）	花見や入・卒業式等の行事が増えてくれば、景気は良くなると思う。但し、同時期の売上げを過去と比較すると、年々下降しているのが気になる。
		製造業（飼料）	穀物価格の上昇分が、なかなか製品価格に転嫁できない。また、昨今の穀物価格の高騰は、従来の相場の動きと異なり、投機的な意味合いが強いものであり、今後の動向が把握しにくい。
		製造業（印刷・同関連業）	当社もそうだが、取引先でも、原材料の値上がり分を製品価格に転嫁できずにいる。
		製造業（化学工業）	定期修繕工事が始まるため、減産が見込まれる。
		製造業（化学工業）	石油化学関係の原材料以外にも、鉄鋼関係ほか多分野にわたって原材料の値上げ要請があり、益々利益を圧迫されそうな状況である。設備投資も優先順位等を見直して、より効率的に行おうとする動きが強まっている。
		保険業	消費税やその他の税負担が重くのし掛かってきている。
雇用	公共職業安定所	企業からの声によると、原材料等の高騰による企業収益の圧迫に加え、商品の冷え込みや建設業の低迷等により、仕事量が横這いしないし減少傾向にあるようだ。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	物価上昇等について政府の対応策はなく、厳しい状況はこの先も変わらないと思う。
		衣料品販売店	相次ぐ物価の上昇で、買い控えが出始めていることは既に感じられる。3ヶ月先は、物価上昇の影響が更に大きくなると推測されるため、景気は一層悪くなると思う。
		スナック	景気はずっと下がりがつばなしで、下がったまま変わりがない。最近では、お店で「希望のある将来」について話すこと自体がタブーである。「景気が悪いのに、そんな話は家だけでたくさんだ」と言われてしまう。当店で以前は従業員を1名雇っていたが、今は売上げが落ちて賃金を払う余裕がない。1人で店を切り盛りしているが、売上げは一向に上がらず、このままではどうしたらいいのか途方に暮れてしまう。この景気低迷は、一個人の力でどうにかなるものではない。
		観光型ホテル	予約状況から判断して、今後も景気は悪くなっていくのではないかと。
企業	製造業（食料品）	3月末から4月にかけての原材料の値上げは避けられず、製品価格も値上げされると思う。年度末後のこの時期は、一般家庭においても出費の多い月であり、買い控えが起こるのは当然と予測される。	

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	商店街代表者	つくば市は、県内随一の発展都市であるため、先行きも好景気が見込まれる。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスの好影響は今後も継続すると思う。
		ゴルフ場	3～4月は、予約の出だしが早く、既に満員の日も多い。
		美容室	卒業・入学・就職等を契機に、日頃来店しない新規客が訪れる時期である。各店舗のサービスの特徴や営業努力が成果として現れる時期でもあるので、期待している。
	企業	製造業（食料品）	これからは暖かくなり、行事も多くなるので、多少景気も上向くと思う。
雇用	公共職業安定所	会社の採用意欲が高くなっているように思う。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	3ヶ月前より客単価はやや伸びているが、伸び率が鈍化しているため、3ヶ月後もほとんど変わらないと思う。
		スーパー	中国製品への不安は、3ヶ月程度では変わらないと思う。一方、国産製品の価格が今後どのように変動するのか予測がつかず、仕入れ面で不安がある。
		コンビニエンスストア	ガソリン価格の高騰により、支出の向かうところが変わった感がある。ガソリン以外の物価も上昇しており、更に家計を圧迫することが懸念される。
		コンビニエンスストア	良くなる要因も悪くなる要因も見当たらない。給料が増加する見込みがないので、消費の伸びも期待できない。
		自動車販売店	燃料価格が上がっており、買い控え傾向も一層強まるのではないかと。
		専門スーパー	つくば地区では様々な開発計画が出され、ここ数年は好調に推移する気配だが、県南地域として考えると、一般の消費が伸びているとは感じないし、数ヶ月で好転するとは考えられない。原油や小麦、穀物、鉄鋼等の値上げに端を発した各種商品の値上げ連鎖により、今後の消費動向は「必要に応じて買う」といった渋い傾向になると思う。
		都市型ホテル	長期予報では、雨等も少なく平年より暖かいとのことで、個人消費の伸びが期待できそうだが、今後も続くと思込まれる値上げ傾向が消費意欲に水を差すのではないかと。
		都市型ホテル	予約状況から見ると、3ヶ月前より件数は増えているが、前年同時期と比べて同程度のため、景気には変わりはないと思う。
		タクシー運転手	現在の値上げラッシュに、消費者は防衛スタンスをより強固にしている。
		レジャー施設	気候が良い4～10月頃までは、例年どおり集客できると思う。
	建築設計事務所	工務店では新築工事の仕事はなく、大手不動産業者や住宅メーカーのリフォームの下請けで凌いでいる状況である。	
	住宅販売会社	悪くなることはないだろうが、良くなる見通しもない。	
	企業	製造業（食料品）	5～6月は行楽時期なので、例年であれば消費者の財布のヒモも緩むと思われるが、諸物価が高騰中なので、大きくは変わらないのではないかと。
建設業		コストが上昇する一方で価格を抑えた受注競争をせざるをえない状況は今後も変わらないと思われる、利益を見込むことはこの先も難しいのではないかと。	
建設業（設備工事業）		仕事量が全体的に減少していくという流れは今後も変わらないだろう。	
運輸業（倉庫業）		今後3ヶ月も現状と変わらず推移すると思う。	
金融業		原材料の再値上げの懸念もあり、消費を控えると思われる。	
雇用	学校就業関係者	求人数に関しては変わらないと思われる。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	中国製冷凍ギョーザ事件に伴い冷凍食品の売上げが落ち込んでいることや、食料品の相次ぐ値上げにより、今後は買上げ点数が上がらなると予想される。
		スーパー	物価の上昇はいつまで続くのか、消費者の購買意欲に与える影響も含め心配である。
		スーパー	今後、更にラーメンやパンなどの売価が値上がりすれば、売上げは一層悪くなると思う。
		衣料品販売店	客単価の低下が続いており、昨年値をクリアするのは難しい。今後も景気は悪くなると思う。
		家電販売店	高額商品の価格が低下することが予想され、客数の増加ではカバーしきれなくなると思う。
		農産物直売所	ガソリン等の石油関連商品や食料品、その他の商品の値上げが見込まれることや、サブプライムローン問題等、将来への不安材料は山積しており、今後の見通しは楽観視できない。景気の低迷が予測される。
		農産物直売所	消費者の節約意識が高まっているため、買い控えによって売上げは減少すると思う。
和食食堂	物価が上昇しているにもかかわらず、賃金は据え置きもしくは減少という状態では、買控え傾向は一層強まり、消費は更に低迷するだろう。		

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
やや悪くなる	家計	洋食食堂	景気が悪い状況が何年も続いているので、このまま少しずつ悪くなっていくのか、頑張り次第でチャンスを描めるのか、先行きの見通しが難しい。少しの希望と少しの予約に支えられて営業している状態だが、食材の値上がりに伴い利益は減少している。
		寿司店	仕入れた食材が、以前に比べて微妙に小さくなっていたり、軽くなっていたりして、原材料価格の値上がりを実感する。ニュースなどでも、諸々商品の値上げについて報道しているが、値上げの影響が普通の生活にまともにはね返ってきており、今後の対応に窮している。
		旅行代理店	原油高騰や諸物価の上昇が続き、行楽時期に入っても、旅行を控える消費者が増加するのではないかと。
		旅行代理店	店の売上げは、海外旅行の申込み状況により大きく左右される。北京オリンピックというプラス要因はあるものの、依然として燃料の高騰が続いており、トータルで考えるとやや悪くなるのではないかと。
		タクシー運転手	良くなる要因がない。
		ゴルフ場	客との会話内容から判断して、今後の景気に期待は持てない。また、予約時に値引き交渉をされることが増えた。
		パチンコ店	集客数回復のため、企業努力として新機種への入替えを行っているが、その費用分を回収するために結局は客への負担が大きくなってしまい、一層の客離れを招いてしまうのではないかと。
	企業	農業関係者	この先はますます右肩下がりだと思う。気分的にも下方へ向かっていると感じる。
		製造業（食料品）	年明けからの発注数も前年割れの取引先が多い。春商戦に期待したいところだが、季節商品の売上も悪く、現行の発注量では前年度の数値を確保するのも厳しい状況である。
		製造業（食料品）	中国製の食品は、全般的に売りにくい状況になっている。現在、中国からの輸入はほぼ停止しており、このまま全く入ってこない可能性もあり心配だ。
		製造業（印刷・関連業）	材料費の値上がり分を製品価格に転嫁できないため、徐々に売上げに響いてくると思われる。
		製造業（窯業・土石製品）	新年度に入り、公共事業の発注が減少するため、やや悪くなると見込んでいる。予算化され、動き出すのは年末頃になるのではないかと。また、原油の値上がりの影響が、農作物や他の原材料、日用品にまで波及してきており、先行きは不透明感が拭えない。
		製造業（一般機械器具）	原油高や円高の影響が出てきそうなので、やや悪くなると思う。
不動産業		つくばエクスプレスの開業により、不動産取引の中心地が土浦市からつくば市へ移った感がある。また、ローコスト建売住宅の供給により、取引単価の下落が一層進むと思う。	
雇用	求人広告	人材を増やして利益を上げようとする企業もあるが、人件費を下げての募集では求職者の反応も弱く、活性化にはならないと思う。	
	雇用相談員	徐々に物価が上昇し始め、消費行動は慎重になっている。今後、アメリカ経済の減退や中国等新興国の高成長など、世界情勢の変動による影響を日本企業も受けることになり、更に景気後退の認識が高まると思われる。	
悪くなっている	家計	ガソリンスタンド	県南地区では、ガソリンスタンドの新規オープンが相次いでいるが、出店するのは大手企業であるため、今後も安値競争が続くことが予想される。
		洋食食堂	諸物価の値上がりなど問題が山積しており、先が読めない。また、先行きも客足の伸びが期待できない。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	業界の低価格入札の流れは今後も変わらないと思われ、原油や鋼材等の仕入コスト増分を、土木業者へ販売する際の製品価格へ転嫁するのは難しいだろう。よって、収益は一層悪化するものと見込まれる。また、中国製冷凍ギョーザの事件以降、野菜の価格が上がっているうえ、食料品が軒並み値上げされており、今後益々家計の痛みは大きくなるのではないかと。
		製造業（非鉄金属）	現在、大手メーカーよりコストダウン要請を受けており、見通しは大変暗い。原材料の値上がり分を製品価格に転嫁できる状況にはないため、先行きの景気は悪くなることが予想される。
		建設業	4月以降の引合いは全くない。厳しい状況である。特に、東京電力からの受注は、新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所の補修費用や実験費用などが2,500~4,000億円の負担増となったため、その分通常工事費が抑えられ、例年の1/5~1/8程度に落ち込んでいる。大口の取引先だけに大変な痛手である。
建設業	当社では2カ所の貸事務所を所有しているが、厳しい値引き交渉があり、対応に苦慮している。		

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	家電販売店	8月8日から開催される北京オリンピックを前に、液晶テレビやDVDレコーダーの売行きが好調である。オリンピック特需により、家電業界の景気は今後回復傾向と考えられる。
		和食食堂	4月は、卒・入学や異動の時期であり、客足も伸びると推測されるため、売上げ等もやや良くなると思う。
		パチンコ店	4月には、CM等で話題の機種が市場に出廻る予定であり、その効果で新規ユーザーの増加が見込まれる。これにより、パチンコホール全体の売上げも伸びると期待している。
		ゲームセンター	気候が暖かくなり、外出の機会が増えるようになれば、売上げもやや良くなるのではないかと。
		理・美容店	これから暖かい季節になるので、客足が伸びてくると思う。また、新しいサービスを導入するので、相乗効果を期待したい。
	企業	農業関係者	客足が伸びると予想されるため、売上げの伸びも期待している。
		製造業（化学工業）	半導体関連の立上りはもう少し先になる見通しだが、液晶他民生関連の製品について4月以降受注が増加する見込みである。
		製造業（窯業・土石製品）	中国製品は価格競争には強いが、製品として他社との差別化を図ることは難しい。そこで、国内で加工した国内製品であることを消費者へアピールし、販売促進に繋げようという動きが少なからず起きている。これから、当社のような石材メーカーの需要が高まっていくと思われる。
		製造業（金属製品）	3ヶ月先には新規引合い品が出る予定であり、業況もやや良くなると思う。但し最近、鉄鋼材の値上がりの話があるため、先行きは少々不安でもある。
	雇用	学校就業関係者	求人が昨年より2～3社多い。
変わらない	家計	商店街代表者	今より良くなる条件を探すのは難しい。
		スーパー	物価上昇が続き、消費者の購買意欲が鈍化しているように感じる。
		コンビニエンスストア	新聞やテレビ等の報道内容に心理的に影響される部分が大いいため、客単価の下落傾向はこのまま続くと思われる。
		衣料品販売店	天候次第といったところもあるが、温暖化の影響で天候異変があると厳しいかもしれない。今年の夏は暑くなってほしい。また、この先の販売方針として、当店では、ファッション性の高い商品（洋品）は縮小し、実用性の高い商品（肌着、靴下等）を拡大していく予定である。
		専門スーパー	3ヶ月間で景気に変化があるとは思えない。
		和食食堂	スローフードが見直されつつあり客足は伸びているが、食材の値上がり分で相殺してしまいプラスマイナスゼロである。
		和食レストラン、割烹	現在が底のような気もするが、本当に先が読めない。投資は極力控え、守る時期なのだと思う。
		都市型ホテル	3ヶ月先も大きな変化はないと思う。現在と同じ水準を維持していくのではないかと。
		旅行代理店	春休みやゴールデンウィークの予約状況が、例年より甘い。
		タクシー運転手	この先、諸物価の値上げが控えているので、消費者の財布のヒモが緩むことはないのではないかと。
		タクシー運転手	日本と密接な関係にあるアメリカ経済の先行きが、サブプライムローン等の影響でどうなるのか注視したい。
		タクシー運転手	国会の様子からは効果的な景気対策は期待できないため、このまま変わらず推移すると思われる。
		ドライブイン	このままか、やや少なくなると思われる。
		ゴルフ場	予約状況から判断して、3ヶ月前と大きな変化はないように思う。
		レジャー施設	施設のリニューアルにより、来客が増えることを期待している。全般の景気としては、これ以上悪くならないことを願うばかりである。
		企業	製造業（食料品）
住宅販売会社	今後3ヶ月間で景気変動はないと思われる。		
製造業（印刷・同関連業）	製造業（食料品）		一部の製品で、コスト上昇分を価格へ転嫁できても、当該製品の売行きは一時的に鈍化するため、単純な収益増にはならない。
	製造業（印刷・同関連業）		「今以上悪くなってほしくない」という願望を込めて「変わらない」と回答した。零細企業や地元の個人商店は生き残りをかけて頑張っているが、頑張るにも限度がある。郊外に大規模なショッピングセンターがオープンすると、大勢の若者や家族連れがレジャー気分でお出掛けしていく。この流れは止めることができない。零細企業や個人商店が辛うじて残っている今のうちに、商工会議所や行政が一緒になって有効な施策を考えてほしい。

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	製造業（窯業・土石製品）	例年であれば最盛期を迎える時期だが、あまり変化が伺えない。
		製造業（一般機械器具）	年度末の予算執行により、納期が短いものの、まとまった仕事の発注が来ている。しかし、この受注増は一時的なものなので、売上げ等は大きく変わらないと思う。
		製造業（電気機械器具）	来客等との会話の中にも、急な景気変動がありそうな話題はない。
		金融業	景気回復の兆しがなく、設備投資の資金需要の増加も見られない。販売や生産は現状維持と考える。
	雇用	人材派遣業	4～6月は例年仕事が少ないので、とても苦しい。
		公共職業安定所	製造業では求人が減少しているが、一部においては求人難も見受けられ、産業によっては人出不足感がある（医療・福祉関係）。トータルでは、3ヶ月先も景気は変わらないのではないかと。
就職相談員		求職者の条件が固定しているため、求人企業とのマッチングが難しい。特に、子育て中の女性の就職は、正規・非正規雇用にかかわらず難しい。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	今後、景気が良くなる要素が何もない。
		スーパー	3月に入り、パンやカップ麺等の値上げを実施した。まだ、数字には表れてきていないが、今後も値上げが続くと、消費者の購買意欲が鈍るような気がする。
		コンビニエンスストア	年度が替わり、人の動きに伴って新たな顧客を作るチャンスは増えるが、春先は支出も多く、身近な消費は抑えるのではないかと。
		自動車販売店	来店客数が減少している。また、乗り換えサイクルも伸びており、益々車が売れなくなっている。
		ガソリンスタンド	原油が高止まりしているため、先行きとしてはやや悪くなるのではないかと。
		和食食堂	物価は更に上がり、外食費は一層減少すると思う。
		都市型ホテル	例年であれば、人事異動等の時期なので、歓送迎会等の予約が早くから入るのだが、今年は予約件数、参加人数とも少ないようだ。
		タクシー運転手	最近では、企業の業績が悪くなっているからというよりも、食料品やその他の生活用品の値上げが原因で家計が苦しくなっているため、景気が悪いと感じているようだ。そのため、これ以上の値上げがなくても、収入・支出の割合が現状のままでは、結局のところ家計のマイナスが続くことになり、蓄えはどんどん減っていくことになる。
		ドライブイン	ガソリンの高騰が続く限り、利用者数は益々減少するのではないかと危惧している。
		ゴルフ場	原油高の影響により、食材や燃料費等のコスト増が必至のため、売上げはやや悪化すると思う。
		建築設計事務所	現状に手詰り感がある。先行きはやや悪くなるのではないかと。
悪くなる	企業	農業関係者	資材等の値上がりは今後も続く予想されるため、収益も悪化するだろう。
		製造業（食料品）	中国製冷凍ギョーザの事件は、中国側が問題を根本的に解明しようとせず、有耶無耶にするような態度をとっている印象を受ける。これでは消費者が安心して買い物できるわけがない。加工食品に対する信頼が以前の水準に戻るためには、まだまだ時間が必要だと思う。
		建設業	長引く原油高騰や相次ぐ値上げに対する経済対策がないままでは、この先景気は一層悪化するのではないかと。
		運輸業（道路貨物運送業）	消費が望めない。
		不動産業	法人の賃貸契約で、条件が厳しくなっている。
		サービス業（広告業）	3月が忙しい分、4月以降はまた悪くなると思う。個々の仕事の小規模になっているので、売上げを維持するのが難しい。また、材料の価格上昇もあり、苦しい状況は続くと思う。
		サービス業（コンサルタント業）	今後も原油の高止まり等が続くようであれば、益々企業の収益力が悪化し、同時にそこで働く人々の賃金も押さえられて、不況感が一層加速し、個人消費も伸びなくなるだろう。
雇用	求人広告	派遣会社の採用が少ないため、地域によっては自社採用ができないところもある。	
悪く	家計	農産物直売所	原油高に伴い、ほとんどの商品が値上げされているのに対し、今年の春闘でも賃上げは厳しい状況なので、生活は益々苦しくなっていくと思う。
		理容店	企業の撤退や規模縮小等が相次いでおり、景気回復の要素は見当たらない。

Ⅲ 景気の判断理由 — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家	スーパー	近隣市において、レジ袋の有料化を実施したところ、導入初日よりスムーズに受け入れられたらしい。これにより、レジ袋の利用は従前の20%程度に減少しているとのことで、消費者の環境問題に対する関心の高さを実感した。
	コンビニエンスストア	ガソリン価格の高騰により、マイカー利用を減らし、自転車を使う人が増えているように思う。
	コンビニエンスストア	行楽客が減少している。ガソリン価格の高騰に伴い、車での外出を控える傾向があるようだ。
	農産物直売所	借楽園の梅まつりが始まると、県北地域、奥久慈周辺への観光客数が少なくなる。
	ガソリンスタンド	来店客が「このままでは商売を続けていけない」と話していた。夜逃げしたケースも1件あったらしい。
	小売業（酒類）	インターネットによるワインの販売は順調である。
	小売業（靴製品）	インターネットでの通販が好調である。
	レストラン	世間の景気の悪さを感じる。材料の価格がどれも上がっており、仕入高になっているが、お客様の財布の中身を考えると、10～20円といっても料金を値上げできない。そんな中、1000万円以上の売上げにかかる消費税の負担が結構重い。
	和食食堂	色々な商品が値上がりしているが、4月から小麦粉も値上がりすることになり、頭を抱えている。
	計	観光型ホテル
観光型ホテル		自家用車を利用して来館する客よりも、電車等の公共交通機関を利用して来館する客が増加している気がする。高齢化の影響もあると思われるが、ガソリン高騰の影響もあるのではないか。
関	タクシー運転手	常陸那珂港関連用地へ大手建機メーカーが立地したが、最寄り駅からのアクセスが悪いため、タクシーを利用する人が多い。
	タクシー運転手	最近、地元企業による深夜タクシーの利用割合が減少した気がする。聞いた話では、マイカー通勤者が増加しているらしい。そうすると、深夜のタクシー利用は今後増える要素がなくなるので頭が痛い。
連	ドライブイン	じわりじわりと多方面で物価が上昇しているのが気に掛かる。
	ゴルフ場	プレーの前後にレストランを利用する客が少なくなっている。特に、土・日・祝祭日にプレーする人や特別デーに低料金でプレーする人のレストラン利用が減少している。また、予約を取る時期も以前より遅くなっており、プレーだけを求める客が多くなったように思う。
	レジャー施設	「駐車料金はかかるのか？」という問合せが多くなった。
	レジャー施設	人材不足のため、求人広告を出しても、2社で10名程度しか問合せがなく、予定人員を採用できなかった。
	理容店	自営業やサラリーマンに関わらず、忙しい所と仕事量が減っている所との差が、最近急激に広がっているような気がする。
	美容室	近隣の町工場が閉鎖し、跡地で団地造成が始まった。人口増に伴う新規客を期待していたのだが、遺跡が出土したことから、調査のため工事が延びそうで少々残念である。
	住宅販売会社	県南方面で景気の良い話は聞けるが、県北方面では実感としてなかなか良くなっていない。
	企 業 関 連	林業関係者
水産業関係者		資源の少ない日本では、原油価格が国際情勢に左右され安定しないのは仕方がないが、昨今の価格変動は企業の根底を揺さぶる影響として現れている。特に、農業や漁業などの1次産業にあっては、販売価格を生産者自身が付けられないため、燃料高騰の影響は避けようがない。「食の安全」を守るためにも、1次産業に対して早急な抜本対策が必要だと思う。
製造業（食料品）		中途採用の応募者の大部分が高齢者である。
製造業（電気機械器具）		取引先からはコストダウンの要請、仕入先からは値上げの要請がきており、ものづくりを行う企業にとって大変な時期を迎えていると痛感する。
製造業（電気機械器具）		収入は据え置きだが、物価が高騰しており、買い控えをしてしまう。
製造業（電気機械器具）	水戸北部中核工業団地に鉄鋼会社が進出するとの報告があったので、今後の波及を期待したい。	

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業（電気機械器具）	建築確認申請の問題等で、関連企業では来期の受注状況は厳しいらしい。しかし、輸出案件は増える傾向にある。
	製造業（輸送用機械器具）	中国製食品の安全性の問題から、高価でも国内産へ移行せざるを得ず、個人の生活費への圧迫が益々拡大している。一方、収入の伸びはほとんど変わらないため、購買意欲は低下し、買い控え傾向が浸透している。
	情報通信業（情報サービス業）	いろんな商品が値上がりしており、特に中小企業の経営は苦しくなっているようだ。
	金融業	日立市役所の近くで土地区画整理事業が行われている。日立駅前周辺では数棟のマンションが建ち始めている。これらの影響もあり、不動産売買が以前より少ないようだ。
雇用 関連	求人広告	倒産する企業や雇用問題の悪化が目立つ。中でも、求職者と求人企業との間のロスが大きいと感じる。昨年10月の雇用対策法改正によって、募集・採用にあたって年齢制限の禁止が義務化されたが、現場での本音と建前の違いにより、双方にとって大きなロスになっている。また、企業側がもっと活性化しなければ、高齢者の雇用幅は大きくならないようにも思う。労働力を無駄にせず、皆が元気に働けるような雇用体制が整備されることを願っている。
	求人開拓員	内職を希望する人が増えているらしい。僅かであっても、生活費の足しになる収入を必要とする人が増加しているようだ。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	最近、ネットワークの普及と物流の発達を背景として、いわゆる通販による購買が増えている。特に、法人専用の通販などは、一括調達によるコストダウンを享受できる大企業ほど普及している。地方の支店や営業所、工場などは、今まで地元の商店等から購入していた事務用消耗品などを、本社で契約する通販業者から購入するようになってしまった。つまり、地方で商品を購入してもらえない現象が起きており、地方の商店等にとっては危機的な状況である。
	商店街代表者	同じ商品を仕入れて販売するのであれば、大量仕入れやメーカーバックアップ型の量販店には、価格面や商品量において、個人小売店は敵わない。だが、接客サービスや豊富な商品知識に基づく確かな商品アドバイス、個性的な店づくり、店舗オリジナルの逸品開発や店員の技術など、商店街の個人小売店だからこそその良さは色々ある。しかし、最近「安さ」を重要視する消費者が多いため、個人小売店にとっては大変厳しい状況である。客の買物行動をみると、必要なものは購入するが、必要でないものを衝動的に購入することは減多にない。また、「目的」には金を使うが、「手段」には金を使いたくないという意識が強いのではないかと。例えば、スーパーで食品や菓子を購入するのは良いが、レジ袋の料金は払いたくないとか、美味しいラーメンを食べるために車で遠方まで行くのは良いが、割り箸が有料だったら箸代は払いたくない、駐車場の料金も払いたくないと思うのだろう。大型駐車場を有した郊外型ショッピングセンターに人が集まるのは、ショッピングや娯楽目的だけでなく、只で時間がつぶせるという要素もあるのではないかと。一方、高齢者や一部の富裕層の中には、有機栽培野菜やブランド牛、美味しい惣菜やスイーツ等、高品質で高額な商品を少量買い求める傾向も見られる。よって、今後の小売業界で生き残っていくのは、高級品を扱う一部の小売店や飲食店と、郊外型の安売店・量販店なのではないだろうか。但し、このような勝ち組はごく一部で、多くの小売店は負け組になると見込まれるため、小売業界全体としての景気回復にはならないと思う。
	百貨店、総合スーパー	昨年秋以降の特徴として、シニアをターゲットとしたブランドの売上げ不振が続いている。これも高齢者の生活防衛意識の現れなのだろう。
	スーパー	商品の原産国表示について、色々な質問がくるようになった。
	スーパー	買い上げ点数が減少している。
	スーパー	メーカー製造食品の値上げが相次いでいる。
	コンビニエンスストア	週末に出掛けても、帰宅時間が早くなっているような気がする。繁華街なども静かである。
	家電販売店	最近、街の中心にあったショッピングセンターが閉店した。郊外には、茨城空港の開港を見込んで大型店がどんどん進出している。旧来の商店街は衰退していく一方である。また、政治の世界でも明るい話題がなく、社会全体がどんよりと重く感じる。
	自動車販売店	取引先の法人を訪問していて、建設や建築業の一部では業況が苦しく大変そうだと感じた。
	農産物直売所	中国製食品の安全性への不安からか、来店客数は減少しているものの、購入する品数は増加している。裏を返せば、直売所の品物の安全性を期待しているのだろう。
	専門スーパー	値上げが相次いでいるためか、今まで以上に客が価格に敏感になっているように思える。また、食品以外についても、生産地を気にする人が増えている。
	レストラン	ガソリン価格高騰の影響で、食料品等の仕入れ値も上がっているため、もはや企業努力だけで対応するには限界がきている。
	ファミリーレストラン	どんな飲食店がオープンしても、客数には限りがある。現在は、少ない客数を取り合うかたちになっているため、厳しい状態である。
	割烹料理店	今の時代、携帯電話で話をするよりメールを使用する頻度が多いように、人とふれあい話しながら食事を食べるよりも、1人でも楽しめるコンビニエンスストアや回転寿司の方が需要があるようだ。孤独な人が増えているように思う。
	旅行代理店	大学生を中心に高校生も含めて、女子学生の卒業旅行が復活基調にある。これを機会に、若い世代が旅行する楽しみを覚えて、観光産業が少しでも好調化する足がかりになってほしいと思う。
	タクシー運転手	市街地に空き店舗が多く見受けられる。
	タクシー運転手	物価が上がる一方、収入は変わらないので、身の回り品以外には支出しない、という声をよく聞く。
	タクシー運転手	乗客との会話でも、「生活が苦しい～」という人がほとんどである。
	ゴルフ場	原油高などの影響により、諸物価の値上がりが進み、収支的には厳しい状態が続いている。
	ゲームセンター	ガソリン価格が非常に高い。
レジャー施設	依然として燃料油が高騰しており、平年よりも出港回数が鈍い。	

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	レジャー施設	割引制度や前売り券などの問合わせが多く、レジャー費用はなるべく安価に済ませたいという傾向は相変わらず感じ取れる。
	理容店	夕方18時以降は、国道沿いの通りでも、車両は多いが、歩行者は全く見かけない。通りだけでなく、町内の雰囲気も、暗く、寂しい。当店でも早々に閉店している。
企業関連	製造業(食料品)	必要なもの以外購入しない人が多い。また、クーポン券を利用する人も以前より増えているように思う。
	製造業(食料品)	スーパーでの食料品の価格上昇が目立つ。
	製造業(印刷・同関連業)	顧客の入金状況が良くない。
	製造業(精密機械器具)	ヨーロッパの企業から、相手先商標ブランド(OEM)製品の生産を一括受注することになった。海外の市場は、やり方次第で企業に大きな影響をもたらす、大変魅力的な市場であると再認識した。
	建設業	就業者が少ないように思う。
	運輸業(道路貨物運送業)	安さを全面に出した新業態の店舗では、朝から駐車場に車が一杯である。
	情報通信業(情報サービス業)	先日、県外資本のショッピングセンターを散策していたら、若年層世代が、ブランド品など的高額商品を惜しみなく購入しており、少々価格が張る程度では動じない様子に見受けられた。個人消費の伸びが芳しくないと言われている中、まだまだ購買意欲は健在であると感じたとともに、反面、町の中心部のまばらな集客状況を見るにつけ、当社のような地場企業としては、非常に寂しく感じた次第である。
金融業	金融業	市内において、マンションの建設ラッシュが続いたが、ここに来て建設予定地の見直し等で落ち着きが見えてきた。
	サービス業(コンサルタント業)	商業施設の空テナントやマンションの空室などが埋まりづらくなってきた。以前から苦勞していたが、このところ情報を流しても反応が鈍い。
	人材派遣業	販売系の人手不足が顕著である。最近の採用傾向は、人材がよく集まる業界とそうではない業界に、二極分化してきているように思う。
雇用関連	公共職業安定所	平成20年3月卒の高校生用求人は、2月末で1,467名分で、求人倍率倍1.42倍、就職内定率は93.9%である。大口求人としては、2月に国・県・市町村から、事務補助の期間臨時職員(パート含む)の求人215名分を受理した。また現在、水戸市南町にあるジョブセンターが3月末をもって廃止され、4月1日よりハローワーク水戸(水戸市水府町)と統合される。これに伴い、平日の営業時間が延長(17:15~18:30)され、土曜日にも開庁(10:00~17:00)し、雇用・労働相談を行う予定である。
	学校就業関係者	毎年この時期になると、街のあちこちで道路工事が行われているが、これは景気動向とは関係がなさそうである。水戸市内の旧ユニー敷地の再開発が待ち遠しい。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家	商店街代表者	県内の中小規模スーパーが廃業傾向にある。近隣の小型スーパーでは、経営者が夜逃げしてしまった。そこは、食肉店からスタートした健全で良い店だったのに、非常に残念である。小売業に限らず、農業もその他の産業も、業者にある程度の採算が取れるような改善策・安定策を考えていかないと、産地だけでなく流通も消費もダメになるのではないかと。特に農業は、自然と水の豊かな国土を持ちながら、食糧自給率39%という現状は、まさに政策上の欠陥を露呈したものといえるだろう。将来的には自給率110~120%を目標としたいものだ。	
	商店街代表者	鹿嶋神宮駅の近くに12階建の分譲マンションが、市街地にも大規模な集合アパートが建設されるなど、鹿嶋市内を見る限り、投資意欲は旺盛だと感じる。	
	商店街代表者	今年に入り、大型ホームセンターの出店があり、一見景気が良さそうに見えるが、旧来商店街等の落ち込みを考えると、先行き見通しでは今以上に格差が拡大し、全体として当地域の景気高揚に繋がるとは考えにくい。	
	スーパー	仕入れ原価が上昇しており、やむなく商品価格の一部を値上げした。	
	自動車販売店	100円均一店やリサイクルショップは客入りが良いようだ。また、セルフのガソリンスタンドの新規オープンも目に付く。	
	小売業（金物店）	様々な商品が値上がりしており、家計が逼迫され、とても困ってしまう。	
	スナック	市町村合併によって市となったことで、役場の人達なども中央にばかり集まっている。飲食の機会があっても、代行等で家まで直行してしまい、以前のように帰宅途中で店に立ち寄りということも少なくなった。道路交通法の規制が強化され罰金が高額になったことや、ガソリン価格の値上げによって、一層人が動かなくなったように思う。何とか人の動きが良くなって欲しいと切実に願っている。	
	計	洋食食堂	中国製冷凍ギョーザの事件以来、消費者の食材への関心が高まっている。地域産品や県産品、国産品を使用したいのは当然だが、入手できないものや仕入れ価格差等の問題もあり、材料を全て国産品とすることは、経営上リスクが大きすぎると思う。
		割烹料理店	当店の客を見ても、街中を見ても、高級車が多く見られるようになったように思う。
	関	日本料理店	取引先の業者から聞いた話では、寿司店が2件閉店したらしい。回転寿司などは相変わらず繁盛しているようだが、見通しはあまり明るくないようだ。
タクシー運転手		乗客の話では、夜間営業の飲食店は軒並み厳しい状況だという。特色のある店には客が入っているが、いわゆる月並み営業をしている店の客入りは芳しくないようだ。どの仕事でも、本当の実力が試される時代になってきたと感じた。	
タクシー運転手		大規模商業施設の出店により、閉店する個人商店が続出している。	
連	タクシー運転手	乗客との会話では、「景気が悪い」という話題が多い。	
	ドライブイン	気温が上昇してくるに従い、徐々に来客数が増えてきた。	
	観光名所	現在の物価上昇傾向に対して、政府では何らかの対策を講じているのだと思うが、地方における抜本的な対策は講じられていないように思う。地方の者は、決して現状に満足してはいない。1日も早い景気の上昇機運を感じたい。また、中国製冷凍ギョーザの事件以降、加工食品全般に対して、消費者が不信感や恐怖感を抱いているように見える。1日も早い解決を望みたい。	
	パチンコ店	食料品や原材料の値上がりによる生活不安を訴える声をよく耳にする。防御策として、買い控えや貯蓄重視の傾向が強くなってきたように感じる。	
企業 関 連	理容店	最近の傾向として、何事につけ飽きるのが早いと思う。	
	クリーニング店	08年産米について、生産調整の申し入れがあったが、農家では何に転作していいかわからず戸惑っている。低迷する米価、農業機械のローン、農地改良の分担金等、様々な事情を勘案して、この先どうすればいいのか頭を抱えているようだ。	
	住宅販売会社	企業の業績回復が一般消費者まで及んでいないと思う。	
	農業関係者	燃料費の高騰はいつまで続くのだろうか。どこへ行ってもこの話ばかりである。何とかならないのか、本当に頭が痛い。	
	製造業（食料品）	燃料を始めとして様々な物価が値上がっても、一部の趣向品に関しては売上は落ちていないように思う。	
	製造業（化学工業）	生活に欠かせない食料品の高騰により、生活が圧迫されるのではという不安がある。既に価格の上がつている商品もあるが、買物風景等を見ていると、以前よりも購入意欲が減少しているように感じる。	

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
企 業 関 連	製造業（鉄鋼業）	市内の不動産の動きが活発になっている。
	建設業	市街化調整区域にしてしまうと、規制等も厳しくなるため、鹿嶋市大野地区には、今までのように都会からの移住者は来なくなるのではないかと懸念される。また、農家の高齢化により田畑も荒れると思う。このほかにも、線引きにより、税収の減少や建設業者の倒産増加なども懸念される。
	運輸業（道路貨物運送業）	高速道路から5～10分圏内で貨物を集約させる動きが主流になっているらしい。物流コストがかからず、ジャストインタイムで取引先にサービスを提供できることが、今後運輸業界においては重要になってくると思う。
	運輸業（道路貨物運送業）	毎回のことだが、石油関係の値上げに悲鳴をあげている。最近ようやく値上がり分を製品単価に反映させ、売上げも若干上向いていたのだが、石油価格が更に上がってしまい、再び収益が厳しくなってしまった。しかし、コスト増加分を単価に反映させたということが、特徴的な出来事だったように思う。
	金融業	大型スーパーの出店に伴い、競合店の閉鎖や地元小売業の低迷が見受けられる。
	保険業	近所の商店街で唯一のスーパーが1月末に閉店し、肉や野菜、酒などを買う店が無くなってしまった。
	不動産業	国道沿いに大型店舗が進出している。「こんな大型店舗がこの地域にも来たのか！」と驚くとともに嬉しく思っている。
雇 用 関 連	サービス業	食の安全への関心が高まっている昨今の社会情勢から、残留農薬や異物混入に関する試験依頼が増加している。
	民間職業紹介業	鹿行地域においては、求職者や登録スタッフの確保が大変難しい。業界全体においても、人材不足の感が拭えない。
	求人開拓員	鹿島コンビナートの火災事故の影響で、運送業や倉庫業の稼働が減少しており、求人を控えている事業所もある。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	スーパー	小麦や大豆類の物価上昇により、関連した商品の販売数量がかなり落ち込んでいる。原油高の影響も考えられると思う。
	スーパー	今年の冬は寒く、雪も多かったので、野菜の価格が高騰している。
	スーパー	冷凍食品が特売でも前年の60%しか売れていない。中国産の食材に対して、消費者の目が厳しくなっていると感じる。
	家電販売店	家電製品の修理を希望する人が増加傾向にあると感じる。
	専門スーパー	つくばエクスプレス沿線でマンション建設が増えているが、販売状況は厳しいと聞いている。
	ガソリンスタンド	今年に入って、当社の取り引き先が2社倒産した。1社は住宅機材の会社で、もう1社は金属加工の会社である。報道等では、景気回復は良くなっているときくが、依然としてどの業種でも苦しい状況は変わっていないと感じる。
	和食食堂	近所の商店街では空きテナントが目につく。先日も商店街内の店舗が1件閉店した。
	洋食食堂	子供を持つ母親が「食」に対しかなり敏感になっているようだ。当店でも冷凍物はあまり使わないが、更に輸入物についても気を遣うようになった。
	洋食食堂	レストランの場合、特に小規模な店舗は、ランチの価格を安くしたり、おかわり自由のメニューを設定したり、様々な集客努力を行っている。だから、客入りが良くても経営が続かないケースも多い。また最近、レストランや洋食店を喫茶店のように利用する主婦が多いのが目につく。彼女達は、昼食は安くすませ、夕食準備までの数時間おしゃべりしていくのだが、回転数も悪く、中には店の備品や小物、砂糖など、何でも持ち帰ってしまう者もあり、店の経営状況を悪化させている。
	関連	寿司店
都市型ホテル		取引先を訪問すると、値上げの話題が出ることが多い。かく言う当社でも、値上げをせざるを得ない状況であり、多少の値上げを行う予定である。
旅行代理店		企業の賃金格差が激しくなり、消費者は益々節約を余儀なくされている。景気回復は当分期待できないと思う。
タクシー運転手		公私を問わず、飲食街に繰り出す「集い」が減少しており、歯止めが掛かる様子はない。
ゴルフ場		予約時に値引き交渉をする客が増加しているのは、やはり以前のような好況感が無くなったからなのだろうか。
レジャー施設		土浦市周辺には観光スポットがあまりないため、当社では霞ヶ浦内水面を利用したサービスを全面に出して営業している。
美容室		ひな祭りイベントが各地で行われているが、土浦市でも「おもてなしの心」で観光客を迎えるべく、地元業者と観光協会が一体となり、町おこしに取り組んでいる。これから桜の開花に先駆け、プレミアム商品券の発行やキララちゃんバスに乗って地元商店街を訪れた人には協力店で特別なサービスが受けられる催し等も企画している。今後も商工会や商店街を中心として、賑わいづくりを盛り上げていきたい。
建築設計事務所		建築現場でも、大工さん達は仕事がなく暇なようだ。
住宅販売会社		原油価格上昇の影響が出てきている。
企業関連		農業関係者
	製造業（食料品）	つくばエクスプレスの研究学園駅周辺は開発ラッシュであり、表面的には景気が良く見えるが、景気が良いのは一部の地主と大手開発業者、大手建設会社のみで、一般の住民にはあまり好況感は感じられない。
	製造業（食料品）	最近、中国からの食料品の輸入がストップしており、このままでは食材がなくて経営できなくなる会社も出てくるのではないかと。
	製造業（食料品）	前年と比較すると景気が悪いと思う。
	製造業（飲料）	団塊世代の大量退職を目前にして、30～40代の雇用が始まっている。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関係 連	製造業（窯業・土石製品）	個人的にはガソリンの値上がり最もあり。会社としては、大手企業が期間工や派遣社員等を正社員化して囲い込みを図っているのが気になる。当社では将来が見通せないため、正社員化になかなか踏み切ることができない。
	建設業	土浦駅や荒川沖駅、ひたちの牛久駅の周辺にあるマンションの売行きが著しく落ちているらしい。3LDKで1,500万円以下になろうとしているが、それでも売れていないようだ。1棟まるごと売りに出されている物件も多い。バブルの頃、1坪580～630万円だった土浦駅前の土地が、今では30万円程度となっており、地盤沈下が甚だしい状況である。
	建設業	同業種の人が来社するが、どこも状況は厳しいようだ。受注を取るには価格競争に勝たねばならず、お互い見積り価格の設定に苦慮している様子だった。受注を増やしたい、正規の価格で受注を増やしたい、これが建設業者の切実な望みである。
	建設業（設備工事業）	客も業者も二極化が進んでいるように感じる。
	金融業	原油高騰による価格上昇で、消費意欲が乏しくなっていると感じる。
	不動産業	分譲マンションの売行きが不振で、倒産した会社もあるらしい。業者間の格差が一段とついてきたように思う。
雇用 関係 連	公共職業安定所	面接会等への企業の参加意欲が高い。
	学校就業関係者	求人数は増えており、採用試験も早まっているが、社員を増やすというより、より優秀な人材確保が目的のように感じる。また、新しい企業からの求人も確かに増えているが、その分退職者がいるという現状がある。一方、周囲の様子を見ると、若年者の就職定着率はとても低いように感じる。
	雇用相談員	以前と比べ、首都圏からの求人が目立って増えている。特に、つくばエクスプレスを通勤に利用できる千葉県や東京都の企業が多い。待遇面でも好条件で、県内企業と比べても景気の良さを感じる。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計	商店街代表者	当店では、安全・安心をモットーにしているため、最近客数が増加している。	
	スーパー	最近の客の様子を見ていると、食料品の原産地表示をしっかりとチェックするようになっている。	
	スーパー	増税や年金問題に対する不満を良く耳にする。	
	衣料品販売店	商品の取扱い状況、在庫の有無などについて、電話での問合せが増加している。徹底して必要なものしか買わない人が増えているようだ。	
	家電販売店	景気が悪くなると、商品の買い替えが少なくなり、修理の問合せが増えてくる。	
	ガソリンスタンド	生活製品の値上がりが目につく。	
	和食食堂	ガソリンや原材料の値上がりにより、客単価や利益率は減少傾向なので、全体的には「変わらない」か、もしくは「やや悪くなっている」と思われる。これからは店舗ごとに、独自の対策や取組みを考えていかなければならないだろう。	
	和食食堂	ほとんど全ての食材が値上がりしており、仕入額が上昇している。	
	和食レストラン、割烹	首都圏では、緩やかに景気が回復しているようだが、地方では実感が全くない。消費者は先行きを本当に心配しているので、これから外食を控える方向に向かうのではないかと。客単価・売上げとも上がりづらくなると思う。今まで経験したことのない時代が来た、という危機意識を感じている。	
	関連	都市型ホテル	アメリカ経済の信用不安が連日報道されていることに加え、株価安、賃金格差、政府不安定など、明るい話題が少ない。地元でも、最近また倒産や廃業が増えてきている。
旅行代理店		原油高に伴う原料高騰の影響で、中小製造業の経営者からは「仕事はあるが利益が出ない」という話をよく聞く。	
タクシー運転手		今のところ、企業の景気はぎりぎり現状を保っているようだが、家計は月を追うごとに苦しくなっているようだ。このままの状況が長引けば、企業の業績にも今以上の悪影響が出てくると思う。物価が値上げ前のレベルに戻らない限り、家計の負担は増える一方であり、たとえ収入が多少増えたとしても、支出が現状のままでは景気の好転は期待できない。	
ドライブイン		新聞等のマスコミで報道されているように、今後景気が好転する材料・ニュースがない。従って、個人消費の動向は益々低迷するのではないかと。	
レジャー施設		原油や食料品の高騰が続き、会社の経営的にも個人的にも大変厳しい状況が続いているが、景気が良くなる見込みは極めて低い。	
クリーニング店		近所にマンションやビジネスホテルなどが盛んに建設されている。大手の不動産会社がマンション用地を求めているらしく、空き地になっている場所について、僅かな期間に何社も話を聞きに来た。	
企業		農業関係者	価格の安いガソリンスタンドが混み合っている。
		農業関係者	メロンや梨の出荷が始まる時期には、直売所の来場者が増加し、売上げもアップする。
		製造業（食料品）	北関東自動車道のインターチェンジが続々と完成している。国道50号と平行している部分は、会社の者もかなり利用している。
		製造業（食料品）	中小規模の製造工場においては、取引先である大規模小売店に対して、製品価格の値上げを依頼すること自体が難しい。
	製造業（印刷・同関連業）	同業者の廃業や倒産が目立つ。時代に合わせた設備投資や人材育成は、どこでも行っているのに、どこで歯車が狂ってしまうのだろう。かつては、汗をかき頭を使えば何とかこなしてきたが、これからはそうもいかない難しい時代になった。だが、何事もポジティブに考え、足下を見つめながら前進するしかない。	
	製造業（窯業・土石製品）	当店の周辺には、墓石類の製造を主とする業者が多いが、最近は新規注文が少なく、改造等の仕事がいづらか増加してきている状況である。	
	製造業（窯業・土石製品）	取引先のガソリンスタンドが2月末で閉店した。最近、国道を走っていて目につくのは、ガソリンスタンドとコンビニエンスストアの閉店である。ガソリンスタンドもコンビニエンスストアも乱立しているうえ、商品やサービスについて他店と差別化するのが難しい業種だと思う。これからは業種に関係なく、良い意味で他店との差別化を図れない店舗は淘汰されていくのだろう。	
	製造業（金属製品）	鉄鋼材の値上がりの本決まりとなり、周囲は警戒感を持っている。	

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	建設業	市内にスーパー等の小売店がなくなり、高齢者が買物に不便をきたしている。
	金融業	株価の下落や価格の高騰により、特に富裕層の買い控えが目立っている。
	サービス業（コンサルタント業）	ここ数ヶ月間で、倒産が相次いでいる。大型の倒産ではなく、新聞にも載らないような、従業員10名未満の小さな企業が次々と倒産している。
雇用 関連	人材派遣業	企業規模や系列間の格差があり、下請け企業は本当に苦しい。親会社の方で値上げが必要だと思う。
	求人広告	新しい工場の研修等が多少ある。
	学校就業関係者	既に、平成21年度の求人申込みが来ている。